



VEC関西支部の皆様、 明けましておめでとございます。



昨年のわが国における最大の話題は何と言っても政権交代でしょう。国民各層が閉塞感の中で様々な期待を込めて自公に代わる3党連立の政権を誕生させました。昨年8月の総選挙に至るプロセスは地域経済の疲弊、少子高齢化の進展の中での年金、雇用、医療等の社会的セーフティネットの脆弱性の露呈、既得権勢力の温存による経済的新陳代謝の遅れ等、多様な構造的問題が噴出した過程でもありました。

ただマクロ経済的に見れば、「「コンクリートから人へ」、「輸出から内需へ」、「米国依存からアジア重視へ」などの新たなテーマで新たな時代を築いていくべきだ」とする政策スタンスは中期的に取り組んでいくべき課題ではありますが、これを念頭に短期の景気対策を打つことには大きなリスクがあります。というのも現実には地域経済はまだまだコンクリートに依存している面が強く、多くの中小企業を含め経済全体も輸出企業の業績に大きく依存しており、また中国経済も対米輸出のウエイトが相当部分あるからです。

そして当初から一部では懸念されていたように民主党のマニフェストには子育て支援などの民生分野には手厚い一方で成長戦略の要素が乏しく、また財政規律の根拠となる財源の確保策、更にはベンチャービジネスにとって極めて重要な意味を有する規制緩和に係る取組みにあまり積極的な姿勢が見えませんでした。

結果としてリーマンショック後の経済は未だ二番底の不安感に苛まれ、GDP、IIP、物価、失業率、有効求人倍率など各種データは芳しくなく、株価も他の主要国に比して回復が遅れております。

ベンチャービジネスの世界に目を転じますと昨年のIPO社数は19社に止まり、ベンチャーキャピタルの投資額も一昨年より更に大きく落ち込み、ベンチャーキャピタル業界においては各社における投資事業の縮小撤退や人員体制の抜本的な見直しが行われました。ベンチャー企業もIPOを見送らざるを得ない社が続出したばかりでなく、リスクマネー供給が細り倒産や撤退に踏み切らざるを得なかった事例も大きく増加しました。このように昨年のビジネス環境は最悪の状態にあったと言っても過言ではないでしょう。

他方で昨年はベンチャー企業の活躍ぶりが久しぶりに日本のお茶の間に衝撃と感動を与えた年ではなかったでしょうか。といっても残念ながら海外のベンチャー企業です。例えば米国西海岸のベンチャー企業が作る奇抜な電気自動車の映像を見て、近い将来に従来の交通、エネルギーシステム全体が無名のベンチャー企業数社によって大きく変えられていくという夢を感じた方は多かったと思います。

実はこうした次世代の経済社会をリードするイノベーションの足音

を感じさせる創造的な取り組みは、何も米国だけで行われていたわけではありません。昨年は有望な技術やアイデアを有する日本のベンチャー企業に対する外資系ベンチャーキャピタルやファンドの資金提供や支援が従来以上に話題になった年でもありました。リチウム電池や風力発電、ソーラー関連の素材開発など、環境分野だけでも注目を集めた事例が数多くありました。

その背景にあるのがグローバル化です。今やベンチャービジネスも、好むと好まざるに関わらず厳しいグローバル競争に晒されています。如何にグローバルな戦略を立て、国際的なネットワークを構築してリスクマネーを確保していけるかどうか。良質な投資資金と海外市場とのネットワークの確保はわが国ベンチャーが厳しい競争を勝ち抜いていくうえで不可欠な要請です。外資系キャピタルも躍起になって競争力ある技術や提携先を求めており、日本のキャピタルの投資の低迷が続けばベンチャーは外資に頼らざるを得なくなるのが実情です。

他方で日本の国内には要素技術としてはいいものがあるものの、こうした技術を組み合わせる社会システムとして事業化にまで至るものは少ない、という問題も指摘されています。わが国には要素技術を集約して事業化にまで持っていくプロデュース機能が不足しているためとされています。

そうすると有望な要素技術が虫食いの的に買われてわが国では社会システムとして統合されたイノベーションに結び付いていかないのではないかと、との懸念も生じます。

こうした課題を抱えながら「最悪の年」と申し上げた昨年、わが国ベンチャー及び関連ビジネスにおいては様々な面で合理化、体質強化、これまでのモデルの根本的な見直し、投資先の合理化など、大胆な構造転換が推し進められました。そうした努力の成果を活かし、是非とも本年をベンチャー企業が投資家の信頼を確保しつつグローバル競争に打ち勝てるよう積極果敢な事業を展開し、関係支援機関も各々の役割と責任を分担しつつ欧米に負けないようなリスクマネー供給を始めとした支援を実施していけるような、新しいベンチャーストーリー立ち上げの年にして頂きたいと思っています。

本年もどうかご指導ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。

財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター
理事長 松村 博史

「今年の内外経済と日本株」

○世界経済はリーマン・ショックの影響から立ち直りつつあるようですが、今年の展望はどうでしょうか？

ー欧米は金融問題の後遺症で本格的な回復は難しいと思われていますが、中間所得層が拡大している中国など新興国の成長に支えられて緩やかな回復が続くものとみえています。ちなみに、IMF（国際通貨基金）の予測によると、今年の世界の実質経済成長率は昨年の戦後初めてのマイナス成長（▲1.1%）から3%強のプラス成長に転じる見通しです。

○そうしたなかで、日本経済の見通しはどうでしょうか？

ー海外経済の持ち直しによる輸出の回復に下支えされる形で緩やかな回復の動きが続くものと予想しています。前半は在庫調整の進展による景気押し上げ効果の一巡や政策効果の弱まりから、一時的な踊り場場面があると思われていますが、企業体質の強化もあって二番底に陥るリスクは小さいとみえています。今年度の実質経済成長率は1%強と3年ぶりにプラス成長に転じる見通しです。ただ、大幅な需要不足が残るなかで、企業間競争の激化などからデフレ圧力の強い状況が続く、「回復の実感のない」景気展開となるのではないのでしょうか。

○世界的に株高が続くなかで、日本株の低迷が目立っていますが、その背景には何があるのでしょうか？また、今後の展開はどうでしょうか？

ーまず、背景ですが、一向に歯止めが掛からない円高の進行やエクイティファイナンスの大幅な増加による需給悪化懸念など様々な要因が指摘されていますが、底流には海外投資家の日本経済に対する評価が

低下していることがあるのではないかとみえています。ここ10年余り日本の経済規模はほぼ横ばいに留まっており、今年には中国が日本を抜いて世界第2位の経済大国になると観測されています。つまり、日本経済の成長力を高めるシナリオがみえていないため、換言すれば財政・金融の両面を含めて政策への不信が反映されているとも言えます。次に、今後の展望ですが、今年は前半安・後半高の展開になると予想しています。前半はまだ円高懸念の燃りや景気の先行き不安が株価の重しとなりますが、後半になれば米国の出口政策がみえ始めてくるにつれて、円高の進行に歯止めが掛かり、景気・企業業績への期待感が強まってくるとみられるためです。もっとも、企業業績は今年度、大幅な増益（60%程度の経常増益予想）が見込まれているとはいえ、ピーク時に比べ70%程度の水準に留まり、この点からみればそれほど大きな上値は期待できそうにもありません。

○今年の投資テーマや注目セクターは何でしょうか？

ー今回のリーマン・ショックに対応した世界各国の景気対策の中身をみまると、二つの大きなトレンドがみられます。ひとつは、すでに世界の潮流となっている環境・資源エネルギーです。もうひとつは、新興国のインフラ投資です。前者では商社を始めとして、太陽光発電などに絡んで電機やエコカーなどの自動車、後者では建設機械や鉄道車両に注目しています。



<ヒヤリング先>

みずほフィナンシャルグループ みずほ証券・新光総合研究所

◆これからの税制は？ 増税か？ <後編>



では、少し増税議論の中味を見てみましょう。

個人の所得税で言えば、課税最低額の低下を計り課税の範囲を広くする、各種の所得控除の整理廃止が指向されています。さらに富裕層の課税強化で累進課税の最高税率や累進の率等の上昇が検討されると思います。特に富裕層に関しては、所得税の課税強化と共に、相続税等の改正による課税強化が考えられます。個人課税は法人課税と違い、税率の高低での国際比較の影響が少ないので、確実に増税に向かうでしょう。企業の法人税に関しては、現在各種の特別措置法の廃止も含んで見直しがされています。しかし法人税は負担税率の国際比較も様々な見解がありますが、国際競争の観点からの主張が強く、法人税単体で見れば減税に向かうと思います。消費税に関しては、政治的な事情から時期はどんどん先へ送られていますが、着々と10%以上の税率へのコンセンサスが醸成されてきています。実際、新しい消費税の課税方法の内容まで議論が発展しているようです。

先程書きましたように、現在新政権の基で、新たにこれからの税制についての議論が活発にされているようです。具体的な変化は今後の議論となるでしょうが、是非とも、現在のあまりにも複雑な税制を簡略化して、誰にでも解る税制にして欲しいと思っています。納税や増税に対する国民の反応は、その使われ方に対する嫌悪感や、不公平感も大きいですが、自分がどれくらいの税金を払っているのか、自分の所得に対してどの様な根拠で税金を負担しているのかを理解しづらいのが原因の一つと思っています。納税者が理解しやすい税制になることを願っています。

<完>

クラージュ総合会計事務所 代表 長谷川治雄



「在 釜」

私がお茶のお稽古を習い始めたころ、京都の南禅寺・だるま堂でお茶会があり、私はお茶の先生とお茶会へ。ドキドキ、ワクワクしながら参道を歩いていると半紙に、墨汁で「在 釜→」と書かれた道案内があったのをハッキリと覚えています。



今から、三十七年前の事です。十代の私は「先生、ザイガマと読むんですか？」と大きな声で、たずねていました。笑・・・先生は笑いながら「ざいふ」と読みます。意味は、釜をかけ、茶の湯の用意ができていることを道行く人に知らせるために寺院の門口などに掲げる旗や貼紙に記す語と教えて下さいました。

「それじゃ、招待状がなくてもお茶はいただけるのでしょうか？」との質問に、「昔は、そうですよ。でも今は一定の料金をお支払しないといけないでしょうね！！」との事でした。お茶のお稽古を長くしていると友人や知人に、薄茶のいただき方を教えて下さい、と言われる事が多くなりました。お茶の流派は数十以上あると聞いています。それぞれ流派によってお茶のいただき方も、お菓子のいただき方も少しずつ異なります。

「在釜」の貼紙を見かけられたら一度体験されてはいかがでしょうか！！

◎ マナーとして

1. 受付で申し込みを済ませ料金を支払う。
1. 時計や指輪、大きなアクセサリは外す。(アクセサリで器を傷つけないように)
1. 素足は、NG。(白の靴下を準備)
1. ミニスカートや素肌を多く見せる服はNG。(正座をする為)
1. 香水は控える。(席中で香を焚く為)
1. お茶は両手でいただく。(お菓子はお茶の前にいただくと、お茶をおいしくいただけます)

茶道講師 京都在住 奥村 治美

中国のお正月



皆さんもご承知のように、中国のお正月は旧暦の一月一日にあたり、陽暦では、毎年異なる日になっています。中国人にとっては、旧暦の「大晦日」と「元旦」はとても大事な日になります。ここで、簡単に中国のお正月の一部を紹介したいと思います。中国ではだいたい大晦日の一週間ぐらい前からお正月の準備に入ります。大掃除をし、「春連」や逆さまにした「福」の字をドアに張り、お正月料理やお年玉の用意をします。離れた町に住んでいる人や出稼ぎの人を含めて、ほとんどの人は大晦日の日から実家に帰り、お正月を過ごします。中国のお正月はとても賑やかなものです。代表的な物はやはり、爆竹と花火です。子供にとっては、楽しみの一つです。大晦日の晩御飯を食べ終わった後から、夜中の2時ぐらいまで、爆竹の音が鳴り響き続けます。爆竹を鳴らすという習慣は「魔除け」の意味もあると言われています。また、大晦日の晩はできるだけ、寝ないようにします。みんなで一緒に餃子を作ったり、お正月のテレビ番組を見たりします。元旦の朝は、餃子を食べます。お正月に食べる餃子は普通の日に食べる餃子とは少し違います。餃子の中身はちょっと変わった物を入れます。コインのお金(殺菌消毒したもの)、ピーナツ、ナツメなど。地域によっては入れる物もさまざまです。それぞれ違う意味があります。ちなみに、私が住んでいたハルビンでは餃子の中にお金を入れます。お正月に作る餃子は大量な物なので、もちろん、すべての餃子の中にお金を入れるのではなく、だいたい、一つから五つぐらいのコインを入れます。誰がそのお金を入っている餃子を食べられるか、みんなで餃子を包みながら、盛り上がります。お金が入っている餃子を食べた人は、その年、金運に恵まれると言われています。ちなみに、悲しいことに、私は一回もお金入りの餃子を食べたことがありません。今年こそ、お金が入っている餃子に当たればと思っています。

最近の中国のお正月の過ごし方は少し変わってきているようです。都会に住む人たちは、大晦日の日に家でご飯を食べずに、レストランを予約して、外食する人が増えてきているようです。また、お正月によく見られる、竹馬も都会でみる事がなくなり、ちょっと寂しい気持ちになります。しかし、田舎にいけば、まだ見られるかもしれません。経済の発展とともに、お正月の過ごし方も変わってきましたが、昔から代々に伝わってきた伝統は是非とも守り続けてほしいと思っています。

(注) 福を逆さまにするのは、中国語で「逆さま」は「倒」、これは「到」(来る)という漢字が同じ発音なので、「福が来る」という意味になり、幸福になるようにという願いを込められています。

修 麗娜 (本田工業株式会社)

～VEC関西より～

◆ いいお正月を迎えられたと推察いたします。さて、今年1975年 VEC が(財)研究開発型企業育成センターとして歩みだしてから35年になります。新たなVECの再スタート。知恵を絞りたいと張り切っています。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。(本田)

♥ 明けましておめでとうございます。昨年はVECを通じて特に女性経営者の方々と出会う機会を頂きあらゆる面で勉強になりました。今年皆様から学んだことを少しでも発揮できるよう努力したいです。(濱本)

♣ 修さんは神戸の大学(法学部)で学ばれ、司法通訳などもされる才女です。最近ビジネス界の間でも茶道は静かなブームのようです。奥村茶道講師からの実技指導もお願いしたいものです。今年の注目イベント 4月平城遷都1300年祭。5月上海万博。11月横浜でAPEC15年ぶりに日本開催。本年もよろしくお願い申し上げます。(澤村)

◆ <交流会> 2月19日(金) 経済産業省 新規産業室長 八尋 俊英 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



～フジキンカーブグループ(FCG)のホロニック経営とは～ 小川洋史 代表取締役社長兼CEOに伺いました。

今年5月に創業80周年を迎えられる、フジキンカーブグループ(FCG)は「ながれのあるところ、すべてにフジキンの技術があります」をモットーに特殊バルブ・精密バルブ機器類、電子ながれ(流体)制御システム装置の研究開発型(ベンチャー)トップメーカーとして確固たる地位を築かれました。その技術力については「内閣総理大臣表彰第1回ものづくり日本大賞・優秀賞」をはじめ数々の表彰・受賞を受けられ、昨年も6年連続で「超モノづくり部品大賞」を受賞されましたが第1回から6年連続受賞という偉業は当社を含め全国で僅か3社しかありません。

また永年にわたる「チョウザメの養殖」などソフト、ハードの開発は産・官・学のコラボレーション等で意欲的に推進され、各界で高く評価されておられます。海外拠点もアメリカ・サンタクララ・コネチカット、ドイツ・デュッセルドルフ、アイルランド、ベトナム、上海、北京、台湾、韓国と、今年1月にはシンガポールにも進出されました。

目指す方向は21世紀を担う2.5次産業の保安・安全・安心をリードする国際技術集積的中心企業として、国際社会への貢献を展開して行かれます。

今回、小川社長から経営に関するテーマを中心にその一端をお伺い致しました。

① 2010年FCG(フジキンカーブグループ)統一年間超クイックスローガンとはどのようなものですか。

「世界のフジキンから宇宙環境創りと利用のフジキンカーブグループへ」『第3次世界(経済)大戦の、虎穴(奈落)の底(焼け野原)からの脱出へ!“危損(卍)”を制止、次なる大復活かけTiger charge 80(th)Anniversary Yes,I do!!』

ひとづくり、もの(工場)づくり、うり(営業)づくり、わざ(技術)づくり、しつ(品質)づくり、こと(業務・管理)づくり、ねた&ネット(ソフト・情報)づくり、海外と、グループ全体が一丸となって取組んで参ります。また、今年の上海万博大阪館に協賛、参加する予定ですので是非ご来場下さい。

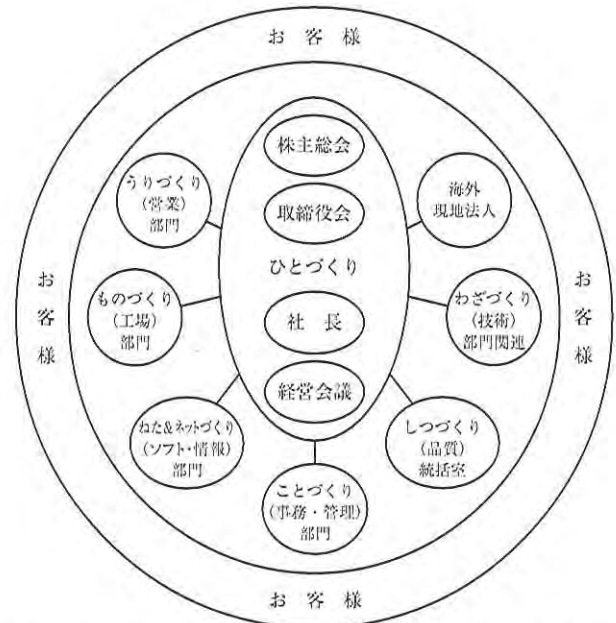
② 貴社グループの「ホロニック経営」とはどういう体制ですか。

ホロンは直訳では「全体子」の意。「全体と個をともに生かす経営」、「個即全、全即個の意」「個と全体が有機的に機能する経営」を指しています。語源は、英国の小説家・ケストラー氏の造語です。

③ 貴社は毎年連続してモノづくりの賞を受賞されておられますが、そのパワーはどこにあるのでしょうか。

昭和5年に創業以来、常に極限に挑戦し、技術の究極を超えることを企業ポリシーとしてきました事がパワーとなっています。

また産・官・学とのアライアンス・コラボレーション(アラコラと略称)により新世代、新時代のながれに積極的に適応してきたことです。



④ だるま精神(信念)についてご説明いただけますか。

「だるま経営」とは、雪だるま流で積上げた、プラス指向によるフジキンカーブグループ(FCG)独自の吾流経営のことです。社内では9項目に亘りその精神(理念)を説明しています。

⑤ ベンチャーや起業を考えている方にアドバイスをお願いします。

当社のモットーは「ながれとともにながれをこえて」です。「ながれ」が「ひらがな」になっているのは人の流れをはじめ、時代の流れや物、金の流れ、すべての流れがビジネスチャンスの意味し、「こえる」のも、ただ単に超えるのではなく足元を見ながら超えることを意味しています。

リーマンショックは大激震であるがゆえに大チャンスです。いつの時代でも「ぼんやり」してはいけません。ベンチャーや起業も今、チャンスは山程多くあります。論語の「40(アラフォー)にて惑わず、ベンチャーに挑戦」しましょう!



フジキンソフト 株式会社
代表取締役社長 小川洋史

◆環境関連ビジネスの現状と今後の展望

2010年の幕開けです。

10年前の2000年、21世紀の幕開けに、当時の小淵内閣は、21世紀の我が国の基幹産業は、IT、環境、福祉、バイオテクノロジーと打ち出し、環境関連ビジネスへの政府の支援が積極的に開始され、大手企業も積極的にCSR経営の名の下に環境分野への取り組みが活発化しました。経済産業省は、2003年に2010年までに環境関連ビジネスの市場規模が約67兆円になると予想していました。しかしながら、環境関連ビジネスの現状としては、他の産業分野よりは、元気ではあるものの、2008年のリーマンショック以来、国内の製造業の生産調整、建築着工件数の伸び悩みから廃棄物・リサイクル産業は、低迷しています。一方、地球温暖化問題を契機として、省エネルギー対策や太陽光発電などの新エネルギー事業などは、政府の後押しもあり、活発化しています。この10年は、環境関連ビジネスにとって技術力が飛躍的に向上した10年でもあり、欧米を抜き、世界のトップクラスの環境技術を持った国になりました。

2020年までの次の10年、環境関連ビジネスは、この10年間に培った技術を、環境後進国のために役立てる時と認識しています。中国や東南アジアでは、米国の環境ニューディール政策に習い、政府の環境

分野への投資が景気対策の一貫で急拡大しています。

鳩山内閣でも我が国の環境技術の海外移転を積極的に支援すると打ち出しています。参入のためには、環境技術を各国の規制に対応するようにカスタマイズを行い、かつて、自動車、家電製品メーカーが海外に進出し、国内よりも海外の売り上げが多くなったように、環境関連ビジネス企業の海外シフトが求められています。

国内の環境関連ビジネスに関して、廃棄物・リサイクル産業は、素材産業化し、製造業の原材料として活用され、再生素材が増えると思えます。上場している大企業にとっては、有価証券報告書等に二酸化炭素排出量の開示や削減対策の記載が義務づけられる方向であるため、安価な省エネ設備、新エネルギーに関連したサービス産業が普及していくと考えています。

これから新規ビジネスとして、環境関連ビジネスに参入されようとしておられる企業は、アジアの環境インフラ投資ビジネスへの関与、再生素材の原材料化に関わるビジネス、低コストな省エネ、新エネに関連したサービス産業としての参入が有効ではないかと思えます。



株式会社 リサイクルワゴン
取締役 本田 大作

「石切さん」

地下鉄中央線本町駅から電車に乗ること20分、生駒山に突当った所の新石切駅を下車して歩くこと5分、そこにちょっとは名の知れた、“でんぼの神さん石切さん”正しくは石切劔箭神社があります。



上之社には饒速日尊（にぎはやひのみこと）、下之社には可美真手命（うましまでのみこと）が祀られています。饒速日尊は神武天皇の祖にあたる天津彦火瓊杵尊（あまつひこほのみにぎのみこと）が日向に降臨されたのと同じように天磐船（あめのいわふね）に乗って大和へ降り立ったと言われています。

私の住んでいる所から北へ500m程の所の日下町がいわゆる神武東征の時、饒速日尊の臣下であった長髓彦（ながすねひこ）がこれを撃退した孔舎衙坂（くさかざか）の戦いのあった所です。長髓彦にしてみれば自分は饒速日尊に臣従しているので天孫降臨した神様が2人も居るとは思っていなかったもので、神武が熊野に回って大和に向った時大いにこれを悩ましたと言われています。ここで何故だか良く理解出来ないが、饒速日尊は長髓彦を殺害し神武の娘婿として神武に臣従し、饒速日尊側主導で神武天皇即位を認めると言う儀式を行なったとされています。以上色々な学者さんの説によればですが真偽の程は解らないが、お話しとしては面白い。

そんな神様に商売繁盛、家内安全、学業成就、病氣平癒、大願成就などなど、何千何万人もの人々が願い事をします。特に初詣の時は神様は大変お忙しく、お疲れになるのでは？私など家内1人の願い事も聞き届けることが出来ません。

今年も多くのお若男女が初詣をされましたが、VECの皆様はいかがでしたか。私は元旦の日の出と同時に参拝しましたが、もう少し参拝者の少ない日にゆっくりお参りした方が良かったのかも知れません。

初詣の年中行事はまだまだお盛んですが、今年は特に各家のしめ飾り、日の丸の掲揚が少なくなっていることが気になりました。不景気のせい世の中が変わって来たのか、少し気になる所です。何ごとにも神だのみも結構だが、自分自身がやらねばならぬ事、つまり新年を迎える準備、家の中の整理整頓、清掃、飾付けなどはちゃんとやっているのかな？しっかりやってほしい。

政治が悪い、国が悪いから不景気だと人様のせいにする風潮が強すぎる。自分はどれだけ頑張ったか、自立の気概を持ってやっているのか？神だのみ、人だのみから自分だのみで商売せよと言いたい。

（追記）

饒速日尊：素戔鳴尊（すさのおのみこと）の子、物部反の祖、と言われている。

長 髓 彦：饒速日尊に殺されたが子孫は青森県弘前に落ちたという説あり。織田信長、仙台の伊達家の先祖とも言われている。

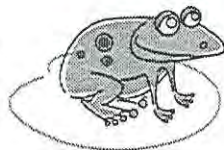
有限会社エス・ブイ総合研究所
代表取締役 山口義彦



求められる生物多様性の保護

最近、新聞などで「生物多様性の保護」という文字を見ることが増えてきました。

今年の10月、名古屋で「生物多様性条約第10回締約国会議」が開催されることもあり、地球温暖化に次ぐもうひとつの環境問題が今、注目を集めています。



地球上には、科学的に明らかな生物種だけでも175万種、未知のものまで含めると3千万種の生物が暮らしていると言われます。いろいろな生物が環境に応じ、乾燥、暑さ、寒さ、病気に強いもの—と耐性を高め、長い時間をかけ進化してきました。そして現在、世界中で数多くの

野生生物が絶滅の危機に瀕しています。

絶滅の恐れが高いものとしてリストアップされた「レッドリスト」には、日本国内だけでも3千種以上が挙げられ、メダカやゲンゴロウ、ドジョウやタニシ、トノサマガエルといったおなじみの生き物がリストには並んでいます。絶滅の原因は、無秩序な開発や乱獲、外来種の持ち込みなどすべて人間活動に由来しているのです。

ある生物種がいなくなるのがなぜ問題なのか？これはジグソーパズルに置き換えてみるとわかりやすいかもしれません。生物種も一つの種がいなくなると、ちょうどジグソーパズルのピースが一つ抜けたように周囲の4つも脆弱な状態になってしまいます。その4つも脱落すると、さらに次に隣接したのも危うい状況になり、パズルにできた穴がどんどん広がるイメージです。

生物多様性を守るために、企業も立ち上がり始めました。建設など開発に関わる企業や、セメントや製紙など原材料が自然由来の産業が注力しています。有名なのは、テレビCMでもおなじみの「5本の樹」計画の積水ハウスです。これは施主さんのお庭にその地域に昔からある樹木を植えてもらい、鳥や虫を呼び戻し、町に小さな里山をつくらうというものです。この活動は多くの顧客に支持され根付いてきています。

「メダカって絶滅したと図鑑に書いてあったよ」—将来、子どもたちがそんな寂しいことを言わなくてすみますように…。

グッドワーク研究所 原田 京子

★ VEC東京本部 事務所移転のお知らせ ★

この度下記のとおり移転致しますのでお知らせ致します。

・新事務所での業務開始日(予定)平成22年2月15日(月)より

・新住所 〒103-0014

東京都中央区日本橋蛸殻町1-16-8

水天宮平和ビル2F

TEL: 03-5640-3155 FAX: 03-5640-3158

・地下鉄最寄り駅 日比谷線 人形町駅から徒歩4分

東西線 茅場町駅から徒歩6分

半蔵門線 水天宮前駅から徒歩2分

メールアドレスは変更ありません

～VEC関西より～

◆年が明けると、小沢氏秘書の逮捕など騒がしく肝心の景気対策どうなってゆくのか心配です。民主党の断罪も結構ですが審議を尽くして早くこのデフレ地獄を脱却してほしいものです。(本田)

♥毎年、フジキン小川社長様のてんこもり原稿の編集に携わる事ができ、楽しみと共に、やりがいを感じます。社長有難うございます。(藤本)

◆今年もフジキン カーブ グループ小川社長よりパワフルなメッセージを賜りました。右上段の新体制概念図は大宇宙と小宇宙の生命体のように全体と個が調和した組織を表したもので、原図は宇宙の中に各セクションが配置されているイメージとなっています。リサイクルワン本田取締役からは4月に交流会で講演いただきます。山口氏からは住まいの至近にある高名な石切神社を、CSR に取組んでおられる原田さんは新しい職場から寄稿いただきました。(澤村)

◆<交流会の予定>

3月4日(木) 日本経済新聞社大阪支社 編集委員

坂川 弘幸 様

3月25日(木) 多摩大学名誉教授

那野比古 (井上一郎) 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



伊能忠敬、 ベンチャー・スピリットの原点をみる



VECは2月中旬、水天宮近くに移転した。

それ以前の八丁堀には、亀島橋という元禄の頃から有名だった橋がある。この橋際こそ今回取りあげる不屈の人物、伊能忠敬が晩年を過ごし、わが国初の全国測量データを取りまとめた場所である。

地図は忠敬の死後3年後の1821年『大日本沿海輿地全図・実測図』として完成、幕府に献上された。

忠敬は1745年、上総国は現・九十九里町の名家に生まれた。17歳になって、現・佐原市の名主、伊能家に養子として入る。天朋の大飢饉を村内の1人の餓死者もなく乗り切るなど、名主として素晴らしい業績を残している。

忠敬は1795年、天文学や暦学への募る思いを実現すべく、家督をゆずって単身江戸に出る。50歳であった。幕府天文方、高橋至時（よしとき）に弟子入り、暦や日月食の計算に没頭することになる。

当時男性の平均寿命が40数歳といわれた時に、50歳というのは相当のお年寄りということになる。

忠敬は子午線1度の長さ、つまり赤道上での緯度1°の間隔に大なる興味を抱く。というのは、これが判明すると地球の大きさが判かり、より精密な暦を開発することが可能だからである。

忠敬は、当時ロシアの進出で不安定化していた蝦夷の地図を作製するという名目でこの距離を実測しようと考えた（結果的には28.2里=約110km、誤差0.1%）という非常に優れた値を算出している。

1800年、忠敬55歳の時、幕府の許可が出る。これが以後16年間、全国10回、延べ3737日におよぶ日本全土実測の発端となる。

当時はまだわが国には三角関数は知られておらず、測量方法は平板法。

日本全国の海岸線を磁石と計測縄をもってつぶさに踏破した。総距離は実に地球1周に相当する約4万km。忠敬には幸運がひとつあった。それは当時偶然にも江戸の偏角は0。緯度的には実に正確な地図が出来上がった。経度についてはクロノメーターは持ち合わせておらず、月など天体の食現象から算出している。

ちなみに伊能図は1929年、陸軍測量部が5万分の1地図を完成させるまで重要な軍事用地図として用いられた。

55歳からの異分野での再出発。

忠敬の偉業の中にベンチャー・スピリットの原点を見出すことができる。

飽くなき興味の探求、不屈の精神。忠敬はその手本をわれわれに示したと言えよう。

科学技術ジャーナリスト
多摩大学名誉教授
那野比古

神々のふるさと「しまね」にいらっしゃい！

「出雲大社で縁結び〜♪」双子姉妹のマナカナが歌うこんなテレビCMをご覧になった方もいらっしゃると思います。

一昨年放映されたNHK朝の連続テレビ小説「だんだん」（出雲地方の方言で「ありがとう」の意味）で主演していただいた縁から、マナカナさんには「しまねしまい（島根姉妹）」として島根を応援してもらっています。

このように島根県では、関西における認知度を高めるために、観光をはじめとした各種の産業振興施策を展開しています。その事業展開の中心となるのが島根県大阪事務所です。この事務所の紹介に併せ、島根県についてご紹介させていただきます。

当事務所は北区西天満の国道1号線沿い、梅新交差点から東に500mの位置に所在しています。

白地に赤い文字の「島根ビル」の看板が目印です。

スタッフは総勢19名で、島根県職員のほかに現地採用の嘱託員、県内市町村からの派遣職員により構成されています。（因みに私は出雲市からの派遣職員です。）

事務所は「観光振興」「産品振興」「企業誘致」のセクションに分かれ、日々島根を売り込んでいます。



【観光振興】

数年前まで、島根県は「日本一知名度の低い都道府県」という、哀しい評価を受けておりました。実際には出雲大社や石見銀山に代表される歴史・文化遺産を豊富に有し、さらに風光明媚な隠岐の島や日本海沿岸、それに中国山地を背景にした各種の自然観光資源に恵まれた地域です。

そこで、それらを効果的にPRすることで誘客に繋げようと、前述したテレビCMや、メディア・エージェントを対象とした観光情報説明会の開催、観光展の開催等に取り組んでいます。

特に平成24年が古事記編纂1300年（古事記には出雲神話として知られるヤマタノオロチや大国主命の国譲り神話が記されています）にあたり、また平成25年の出雲大社正遷宮（60年ぶりです）を控えていることから、「神話」をキーワードにした地元の盛り上げとそれに連動した観光戦略の構築に着手しているところ です。

< 続く >

島根県大阪事務所
調整監 三島 慎也

住 所：大阪市北区西天満3-13-18
島根ビル 2階
TEL：06-6364-3605

「労働問題を取り巻くあれこれ」

昨今、労働法も労働者保護の改正が多く事業主にとっては少々厳しいと感じておられる方も少なくないと思います。

4月には労働基準法の改正により段階的に時間外手当の割増率を引き上げなくてはなりません。そして7月には育児休業法の改正により、専業主婦がいても、育児休業を取得できるようになります。そんな改正の嵐の中、労働争議の数も倍増しているのが現状です。

今回は労務管理についての質問をいくつかあげてみましょう。

Q、X氏の試用期間中にもっと能力の高いY氏から入社申し出があったのでX氏を解雇しY氏を入社させたい。

A、X氏を引き続き企業に雇用しておくのが適当でないと判断することに合理的理由がある場合に限り、即戦力でないからとした理由での解雇は解雇権の乱用となるため×。

Q、職場でトラブルばかり起こしている労働者を解雇したい。

A、単に協調性が欠如しているといっても業務に支障が生じていなければ解雇は出来ませんが、労働者の企業秩序維持義務が守られていなければ解雇は可能です。ただしこの場合、就業規則の服務規定及び解雇事由に明確に規定しておくことが必要です。

Q、仕事が終わった後、更衣室でのおしゃべりが長く、その後にタイムカードを押すのだが、その時間も時間外手当が必要か？

A、会社が作業服の着用を義務付けている場合は更衣にかかる時間も労働時間となります。(概ね5分程度が妥当な所要時間であるとされています)終業後にまずタイムカードを押しプラス5分の賃金を支払えば足りる。これも就業規則もしくは社内通達にて労働者に周知しておくことが必要です。

Q、有給休暇を取得した社員については皆勤手当は支給していないが違法ではないか？

A、有給休暇の取得を抑制する不利益取扱いとしてはならないが、有給休暇を取得したとしても皆勤手当は支払わなくてはなりません。又、年休の買い上げを予約する契約も無効となります。

Q、社員の配置転換や出向命令は会社が一方的に行うことができるか？

A、就業規則等に定めている場合は包括的同意があったとされ、個別の同意は必要ありません(転籍及び移籍出向については労働関係そのものの変更であるため本人の同意を必要とします)。ただし、配置転換等の理由や労働者の労働条件が著しく不利になる場合等は、命令権の権利乱用となる場合がありますので、適切な配置転換を行ってください。

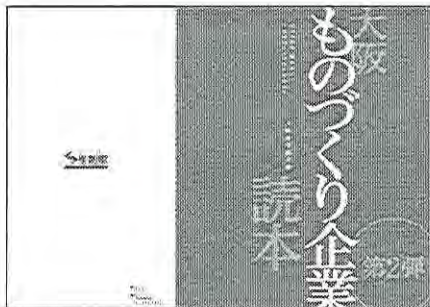
十社十色。対応方法も様々です。

「自社も当てはまる!!」なんて思っておられる事業主様!労働争議の場でしっかり対抗できるよう、就業規則を改めて一から見直してみたいかがでしょうか?

社会保険労務士 山本 佳愛

～「大阪ものづくり企業読本 (大阪産業創造館発行)」 に本田工業株式会社が掲載されました～

読本(2010年1月発行)には独自の技術と戦略を持つ大阪市のものづくり企業35社が紹介されています。大阪産業創造館の「ものづくり支援プロジェクトチーム」は独自の技術や戦略を打ち立て、厳しい時代に挑む大阪の中小製造業の取組を紹介することで、より多くのビジネスチャンス創造を目指しており、その一環として発行されたものです。



<表紙>

建材や自動車の耐久性・安全性の テスト環境を実現する

本田工業は、建材・環境の試験装置や風洞システム、自動車とその関連部材の性能試験装置など、数々のテスト環境を提供している。試験やテストを実施するのではなく、試験装置そのものを作っているのが特徴だ。代表的なものが風洞装置で、これは台風の時にカーテンウォール、サッシ等が受ける風害やビルの谷間での風の流れ方などを調べるためのシステムである。さらに耐震強度や水密性、防・耐火、耐熱、遮音など、住環境に関わるさまざまな試験装置も開発している。

自動車関連の試験装置では、「自動車用環境風洞」が挙げられる。これは「走行時に発生する気流や気圧を再現して、燃費効率や加速性能、排気ガスなどを確認するものです。また、自動車の空力性能を計測する実車風洞におけるトラバース装置(車の周辺風速を計測する)は、当社独自の技術となっています」と本田氏。安全走行支援システムの開発に必要な「車輪走行模擬試験装置」など、幅広いニーズに対応している。

また、屋外型ガス機器や燃料電池、ソーラー

パネルの環境試験装置なども開発。「特にソーラーパネルは、台風時の風加圧に耐えられるか、強風によってボルトがゆるんだり配線が切れたりしないかなど、調べるポイントが多岐にわたります。現在、ソーラーパネルに関する試験そのものは多くないですが、今後、必然性が増すと確信しています」と同氏。必要な試験やテストを相談されれば、それに最適な方法とシステムを提案・構築することができる。それが、同社の強みだと言える。



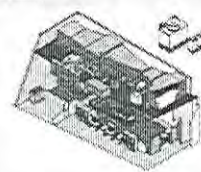
本田工業株式会社

大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9F
http://www.h-dynamics.com/
TEL 06-6265-5501

代表取締役社長 本田 英行氏

1967年にアルミサッシの耐震、耐熱、気密・水密試験装置を開発し、業界のパイオニア的存在となる。2003年より、試験装置の事業に特化している。

商品



風洞システム。断面全体から一定の風力で風を送るため、場所によって風速が変わることはない。

<記事の内容>

～グルメ情報～

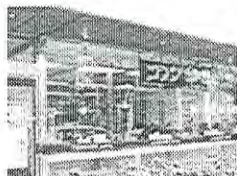
★名古屋から大阪へ進出の「コメダ珈琲店」!

名古屋の人なら誰でも?知っている創業40数年と歴史のあるコメダ珈琲店が昨年御堂筋本町西入にオープンされましたので、その人気の秘密を訪ねました。

店舗数は名古屋地区を中心に全国で約340店舗を展開され、店内はソファで区切り、静かで落ち着いた雰囲気に加えウッディなのが特色です。オフィス街にあることからビジネスマンの打合わせに使っている人、一人でゆっくりしている人、女性同士の人など様々です。

メニューの特色は名古屋色とも言える「モーニング400円でコーヒー、トースト、ゆで卵付き」や「小倉トースト380円」「コーヒーはピーナッツ付き400円」「シロノワール大590円」のほか、ランチメニュー、スイーツ、ケーキ類等々……。シロノワールはソフトクリーム1個分も乗っていてボリューム満点を堪能しました!

残念ながらアルコール類はありませんが「名古屋が懐かしい、家庭的な雰囲気や寛ぎたい、コーヒーが好き、甘いものが好き」という方は一度立寄られてはいかがでしょうか。



～VEC関西より～

◆VEC関西新年会は70名を越す大盛況で、本省より八尋新規産業室室長をお迎えし、最近のベンチャー事情のお話を頂きました。4月からまた新しい年度を迎え、読者諸氏の社業発展を祈ります。(本田)

♥自宅から少し足を伸ばした郊外の映画館を偶然見つけ、そこで映画を楽しむことが今のマイブームとなっております。何といたっても都心の人でゴった返している映画館と違い場所も場所なので私にしてみれば観客人数の少なさがあって最新の人気の映画をゆったりとした雰囲気ですらラックスして観ることができ、まるで我々のためのスクリーン(?)並みに感じられるのが最大の魅力!!又その映画館の格安割引券を正月早々抽選してしまいマイブームは当分続きそうな予感です。(濱本)

◆那野比古先生には3月交流会でもお話し頂きます。島根県の場合は2回に亘りますのでご期待を。山本社会保険労務士さんからは事業主への発信です。本田支部長が「大阪ものづくり企業読本」に掲載されました。コメダ珈琲店は名古屋地区で知名度高く久し振りに名古屋の雰囲気を味わいました。春を迎えまさに「てんこもり」です。(澤村)

◆<交流会の予定>

4月23日(金) 株式会社リサイクルワン

取締役 本田 大作 様



TEL:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



税金の使い方に基だ疑問！



今の日本の政治家は、本当に日本を良くしようと思っているのでしょうか？政治家自身のお金のことばかり考えて、国民のことなど何も考えていないように思われます。首相自ら納税の義務を果たさず、修正申告をすれば問題無いような言い方をしていますが、言語道断、税金がどのような意味を持っているかすら知らない人が首相をしています。

日本が明治維新で長い惰眠から覚め、世界の先進国となり得たのは先人達の汗と涙と尊い命の犠牲の上に成り立ってきました。我国が発展した場面を考えてみると、国を目標を掲げ、国を挙げて邁進する力強さがありました。良い、悪いは別にして、明治には「富国強兵」、昭和の初めには「大東亜共栄圏の建設」、戦後では「所得倍增計画」などが目標でした。しかし、今の日本に目標はあるのでしょうか？何もありません。「友愛」では国は成り立ちません。現実問題としての「友愛」とは他人、他国に自分、自国の持ち物、権益を譲ると言う意味でしかありません。日本が営々と築き上げてきたものを「友愛」の一言で他人、他国に譲り渡す結果になることは明白です。国の借金が900兆円を突破しているにもかかわらず、公務員の削減は一向に進まず、事業仕分けなる茶番劇で国民の関心を買おうとする態度を見ていると本当に国の為になっているのかと疑ってしまいます。特に技術立国を目指していると表明しておきながら、スーパーコンピューターの事業仕分けにおいて「何故世界一を目指すのか？二番ではだめなのか」などとバカな発言をする国会議員がいること自体、国の恥だと思います。最初から二番を狙って研究する技術者などいません。技術開発するのであれば、世界一を目指さなければなりません。その結果として二番になってしまう可能性があるのです。

私は、子供手当、公立高校無料化、農家の個別補償、高速道路の無料化にも非常に懐疑的であります。このようなバラマキでは景気は絶対に良くなりません。このようなことに予算を浪費するのであれば、①希望者全員の子弟を保育所に入れる制度の確立。これにより女性の職場進出が活性化されます。②公立高校で成績優秀者の無料化。生活が苦しい生徒のみ無料化。③授業料無料で入れる国立大学の枠の新設。大学院生の授業料補助制度の拡充

④科学技術分野への集中投資。等を行えば、不況にも強い科学技術立国が誕生すると思います。

「ハコモノは作らない」と政府は明言していますが、道路、橋、学校、病院などで耐用年数が過ぎ、補修しなければならない構築物が数多くあります。このような補修をする予算も無駄なのではないでしょうか？補修をすることにより、地方にも仕事が発生し景気は良くなると思います。子供手当を支給しても遊興費に消えてしまい何も残らないと思います。公立高校無料化にしても、高校に補助金を支給するのであれば理解できますが、親に支給しても生活費に回されて結局「生活保護費」になってしまいます。それにろくに勉強もしないバカ高校生を増やすだけです。私は遊興費に使われるために一生懸命に働いたお金を納税しているではありません。私は、憲法に定められた国民の納税の義務を真面目に果たしてきました。しかし、今回ほど予算の使い方について疑問を感じたことはかつてありません。このままで行けば日本は真面目に働かない国に頼った国民ばかりになってしまいます。

最後に、ネットで話題となっていますジョークを一つ

「日本に正体不明の鳥がいる」

中国から見れば「カモ」に見える。

米国から見れば「チキン」に見える。

欧州から見れば「アホウドリ」に見える。

日本の有権者には「サギ」だと思われている。

オザワから見れば「オウム」のような存在。

でも、鳥自身は「ハト」だと言い張っているようだ。



新和商事 株式会社
代表取締役 森下喜郎

神々のふるさと「しまね」にいらっしやい！ <後編>

【産品振興】

島根の豊かな自然の中で育まれた農林水産物や加工品の数々は、全国にも誇れるものです。ぶどうやしじみ、出雲そばやあごの焼きといった知名度の高い産品の他にも、いちじくや柿などの果実類や各種野菜、カニやイカ、岩がきやワカメといった日本海の魚介類（ノドグロなどは煮ても焼いても干しても最高の味です）を関西のより多くの皆さんに味わっていただくため、市場と産地との連絡調整や、マッチングによる販路拡大を図っています。さらに物産展や産直市などのPRイベントの開催により「しまねブランド」の認知度向上に努めています。



島根県観光イメージキャラクター「しまねっこ」

【企業誘致】

島根県の県外誘致企業の6割が関西に本社を置いており、また産品出荷を含めた取引の中心が関西圏であるなど、関西を抜き

に島根の産業は語れない実状があります。当事務所では、独自に配置した誘致専門員、産業立地アドバイザーと職員により、誘致対象企業の新規開拓、既立地企業の親企業等へのフォローアップ、また販路開拓に向けた県内企業とのビジネスマッチングを行っています。起業支援メニューとしては、各種助成制度のほか、新産業創出を目的とした研究開発型企業の集積団地「ソフトビジネスパーク島根」にインキュベーションルームやレンタルオフィス、また産業技術センターや産業振興財団を併設することで、技術研究開発や経営支援について充実したサポート体制を整備しております。

出雲大社は縁結びで有名です。こうしてVEC会員の皆様やスタッフの方々とお近づきになれたのも「縁」と心得、何か皆様のお力になればと思っております。

飲んで（豊富な地酒）食べて（四季折々の山海の美味）泊まって（80を超えるバラエティに富んだ温泉宿）、魅力たっぷりの島根にぜひ足を運んでください。

「しまねにしてね！」

島根県大阪事務所
調整監 三島慎也

「人材ビジネスからの近況報告」

いわゆる「リーマン・ショック」以降、各企業が大幅な採用手控えや、リストラ、派遣切りといった人材に絡む暗いニュースが賑わす中、我々人材ビジネス業界においても、そのあおりをモロに受け、人材紹介、人材派遣業とも、かつてない厳しい局面に遭遇している。

具体的には、(1) 売り上げが激減(対前年比40~70%減)、(2) 規制緩和による新規参入事業所の急増(ここ数年、対前年比で毎年平均20%の増加)、(3) 競争激化に伴う紹介手数料の落ち込み(一部、20~30%ダウン)、(4) 企業からの求人案件も要求レベルが上がり、より複雑かつピンポイント人材が求められており、条件に合う人材がサーチ出来なくてチャンスを逸するというケースも増え、正に「四面楚歌」の様相を呈している。

人材会社は、自社のスタッフの削減と事務所スペースの縮小(中には都心のオフィスをクローズして自宅に移転するケースも続出している)、廃業、身売り等も余儀なくされている。

これらの現象は、人材ビジネスがわが国に立ち上がって以来40年、やっと一つの産業として認知され、確立しつつある中で、大きな後退となり、改めて業界としての脆弱性を露呈することとなった。とはいえ、人、モノ、金、情報といった企業経営4要素が、従来の「ストック(蓄積)型」から、「フロー(流動)型」へのビジネスモデルに急激に転換していく流れの中で、(1) 少子高齢化や、グローバル化が進行し、(2) 世界的な規制緩和や開放化が進む中で(今や、業界の垣根を超え、業態、業態に突入)、(3) ネット社会に象徴されるリアルタイムなスピード経営が求められ、(4) 変化の多様性に対応するには、まさに「即戦力」の人材をタイミング良く配置していかなければ生き残れなくなると考える企業は多い。

それに代わるべく複数の武器を持った「プロの人財」を企業の戦略にあわせて提案していくといった、ようやく、本来の人財紹介の役割を果たす時代がやってきたといえる。

株式会社バンステーション 代表取締役 岡田 政之
大阪市北区中之島4-2-28 甲南アセット中之島ビル4F
Tel: 06-6447-1190 Fax: 06-6447-1222

人間は本来、“回復する力” “治ろうとする力” がすばらしく働いていますが、生活習慣の乱れ、ストレスなど様々な要因によって、そのバランスが崩れると身体が悲鳴をあげてしまいます。全身を映し出している足裏には、心と身体のサインがいっぱいあります。日々頑張っている心と身体のサインに気づき、ちょっと生活習慣見直す、ちょっと食事を見直す、ちょっとリラックスできる時間を持つ、そんなきっかけに“リフレクソロジー”を取り入れていただければいいと思います。

JHRS認定リフレクソロジスト/インストラクター 秋田悦子



~おもしろい“色”のおはなし~

私達の生活・ファッション・インテリア・風景など「色」はなくてはならないものです。要するに色のない生活は考えられないということです。

皆さんは様々な色が人間の心理・健康などに大きな影響を与えているのをご存じですか。色は感性・感覚の世界です。

これからは色のパワーを研究、究明し心理だけでなく健康・ファッション・ビジネスにも役立っている「カラーセラピー」のおはなしをしたいと思います。現在、リラクゼーションや癒しとか雑誌・メディアなどからよく耳にします。体力的または心理的ストレスなど疲れた日々を感じていらっしゃる方も多いはず。それでは、人間が最も心地よく感じる色は何色でしょうか。

皆さんは各々様々な色を思い浮かべていらっしゃるでしょう。答えは「ベージュ」色です。なぜベージュという色か?という質問には私達は生まれて赤ちゃんの時お母さんの温かい胸に抱かれおっぱいを飲みます。いわゆる「ベージュ色」はお母さんの肌の色。生まれて間もない赤ちゃんは目がまだ見えなくても光の波長により皮膚感で感じとっているのです。母親の愛情、優しさ、安心感。それが成長して大人になっても我々はどこかに記憶しているのでしょうか。ベージュ色を見て感じる時、一番人間がリラックス状態ではないかと(科学的数値からも筋肉を弛緩させている数値です)。毎日忙しくしておられ休憩が必要な方やおだやかな気持ちになりたい時は「ベージュ色」を上手に取り入れ日常生活をホッとした気分にしてみませんか。

今回からはじまりました「おもしろい色のおはなし」、又次回をお楽しみ下さい。

色彩心理カウンセラー 濱本 妙子

リフレクソロジー

~足裏はからだのサインがいっぱい!~



“リフレクソロジー”耳にされたり、目にされたりしたことがある方もいらっしゃるでしょうか。テレビ番組などで足裏をグイグイ刺激して、「イタタタタタ・・・」「あなたの弱いところは、〇〇です!」など、足ツボ、足マッサージというイメージが多いかもしれません。

実は、“リフレクソロジー”とは、「Reflex(反射)+Ology(学問)」二つの単語をつなげた造語で、反射学→反射療法と訳されています。身体先端部分に“全身”が映し出されていることから、手や足などの“身体に対応した部分”を刺激する=“間接的”に身体様々な部分に働きかけることによって、心身のバランスを整え、誰もが持っている自然治癒力が高まり、不調の改善や痛みの緩和などが期待できるという健康法です。イギリスなど欧米では、「補完医療」としても広く取り入れられています。

一般に「英国式」と呼ばれているものは、五感に働きかけることも大切にしています。アロマの香り(嗅覚)や落ち着いた色や照明(視覚)、音楽(聴覚)などに包まれながら、素手による心地よい刺激(触覚)をすることで、深いリラクゼーションが得られます。例えば、「肩はもんでくれないのか・・・。」と思っていたら、施術を受けているうちに全身リラックスできたことで、終わった時「あれ?肩が軽くなった。」とか、「不眠症でいつもぐっすり眠れない。」方が熟睡できたなど、反応は様々ですが、足マッサージでない不思議な感覚が得られることもたくさんあります。終了後にハーブティー(味覚)などを飲んでいただくのは、施術後は代謝が良くなっているので、排泄を促し、効果を高めるためです。ぜひ飲み干して老廃物や疲労物質を惜しみなく出されることをお勧めします。

~VEC関西より~

◆三寒四温、今の季節は一番季節を感じる時です。花といえば梅・桜などと言いますが、梅の楚々とした上品な美しさを好む人。桜の陽気な華やかな美しさを好む人、様々です。梅のように地味な香りあるほんとの美しい技術を持った方が桜のように派手に技術を世に出し投資家を集め花見を楽しむような時代が早く来ないかなー。(本田)

♥最近、映画の世界も変わりつつありますね。3Dの画面の美しさを体験したら普通の画面が薄っぺらく感じます。先日アカデミー賞監督・作品賞他、元夫婦対決も面白かったです。作品は対象的でしたが、どこの世界も女性が強いのでしょうか。(藤本)

◆新年度に入りましたが今年7月1日はVEC創立35周年を迎えます。てんこもりもさらに充実、発展して行きたいと少数精鋭?のスタッフで日々行動しております。皆様からVECへのご意見、要望もお待ちしております。(澤村)

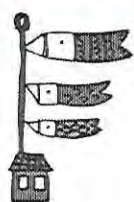
◆<交流会の予定>

5月19日(水) 笠井経営コンサルタント事務所
代表・中小企業診断士 笠井 裕 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



「三人の女性起業家」



元気で素敵な社長さんを紹介したいと思います。

つるちゃんことザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト(株)の鶴岡秀子さんは、最近の著書に「夢の設計図の描き方」「天国体質になる」があり、「10歳から起業すると決めていた」の著書にもあるように小学生の時から社長になると決めておられました。まず販売員として一人で20人分の売上で活躍し、外資系企業でコンサルティングを経験し、IT企業を立ち上げ、その後売却して、もっか伝説のホテルを建設中です。これからの時代は、NQ値(ネットワーク指数)の高い人が成功するとおっしゃっています。

生駒京子さんは、(株)プロアシストの代表取締役で「創造すること、それが私達のDNA」をモットーに頑張っておられます。依頼のあった仕事は、絶対に断らないチャレンジ精神には、敬服します。ユニークな話題としては、昨年10月に「睡眠コンサート」を大阪市中央公会堂にて開催されました。睡眠学関連の3学会の合同大会の関連イベントとして、眠りにスポットをあてた素晴らしいコンサートでした。今回は、中国での開催に意欲を持っている社長さんです。

中西史子さんは、6年前にお会いした時は、(株)ハートギフトの代表取締役の池田文子さんでしたが、その後キャリアデザイン・インターナショナル(CDI)と社名変更され、2年前には、医師による企業のメンタルヘルスサポートする日本CHRコンサルティング(株)を立ち上げ、その代表取締役社長をされています。さらに、近い内に新たな会社を計画されているそうです。

ところで、生駒さんと中西さんは、大学で「21世紀を元気に生きぬく！」で講師をして頂き、つるちゃんと中西さんは、後述の

フォーラム(男女7人の社長さんのバトルトーク)で、つるちゃんが女性軍のリーダー、その時の男性軍のリーダーが吉田雅紀さんでした。

「起ちあがれニッポン DREAMGATE」のチーフ・プロデューサーの吉田さんとは、5年前に、ご著書である「君も社長になろう。」の出版パーティーで出会いました。その秋に、ドリームゲート近畿、関西創業サポートセンター(現、こくきん創業支援センター)および本学園との共同開催で、「元気の出る起業のススメ」というフォーラムを盛大に開催することができました。その際、つるちゃんには、基調講演「成功する人の夢の叶え方」をして頂きました。

最後に、大学で小生らが開催している起業塾の講座ですが、一昨年は「君もショップオーナーになろう」、昨年は吉田さんの著書名そのものの「君も社長になろう」の企画をドリームゲートのアドバイザーで(株)ベンチャーコンサルタント代表取締役の寺田勝紀さんの協力のもと、経済産業省委託事業起業支援ネットワークNICeの後援で、実施させて頂きました。今年も、関西が元気になるような起業家が生まれることを願い、皆様のご支援を得て講座が開講できればと思っています。

大阪成蹊大学 現代経営情報学部
教授 工藤英男(起業塾 塾頭)

◆ 開設20周年を迎えて

島屋ビジネス・インキュベータ(SBI)は今年7月に開設20周年を迎えます。その間100社近くの企業が巣立っています。

SBIは西日本最大のテーマパークUSJに近い、JR安治川口駅前にあります。やや古びた外観をもつ四階建てのビルで、もともと59年に川崎重工の設計事務所として建てられたものを、大阪市を通じて財団が取得して再利用したものであります。これは、工場跡などの老朽化施設を活用していた欧米のインキュベータの視察を80年代後半に繰り返したなかでの“培われた感覚”であります。

無論、外観は古くてもハード、ソフト面で万全の支援体制の下、優秀な企業を排出していくことがインキュベータの役割であり、単に低廉な費用で部屋を貸す場所ではなく、起業家の夢を実現する場所でもあります。

近年、新規上場(IPO)が急減速しIPO中心のビジネスモデルの限界、大学発ベンチャーも量から質への転換の時代等ベンチャー企業の取り巻く環境は厳しくなっていますが、かつて、大阪発の魅力ある企業が多く活気がありました。現在でも大阪の企業、大阪市のポテンシャルは高いと思われますので、今後も魅力あるインキュベータ施設としての存在感を示していきたいと思っています。

Q. 島屋ビジネス・インキュベータに入所するメリットはどのようなものがありますか?

- ・研究開発、経営、技術向上のための専門スタッフ(インキュベーションマネージャー)による、きめ細かなサポート。
 - ・島屋ハイテクフロンティア企業交流会による異業種・異分野の企業交流。
 - ・広範囲なネットワーク(大阪産業創造館、大阪市立工業研究所、大阪市立大学他)による技術・経営サービス・ビジネス情報はじめ研修会やセミナーなどの情報提供。
- 卒業企業の声「同じ様な境遇のベンチャー企業との交流で勇気付けられた。」

Q. 入所時期や条件はありますか?

(入所資格)

- ・研究開発型の中小企業で創業期にある企業または新分野開拓を指向する企業。
- ・先端技術の開発、または既存技術の組み合わせによる付加価値の高い製品開発を指向する企業。

(入所時期)

随時募集していますが、第一次審査、第二次審査を合格した企業が入居可能です。

Q. 入居した場合の家賃やランニングコストはどれ位ですか?

スタートアップ期の経費負担軽減に配慮した賃貸料システムで、1年目は基準賃貸料の8割、2年目は9割、3年目は基準賃貸料というように創業・起業家の1・2年目の負担が軽くなります。電機・水道・電気代は実費負担。専用貸室月額料は、1㎡あたり1,820円(基準額)。月額共益費は、1㎡あたり630円。インキュベーションクラブ費が月額10,000円。

Q. 施設の見学は可能ですか?

連絡をいただければ、随時可能です。

Q. 関西で他のインキュベータ施設はどこにありますか?

関西には各県に多数のインキュベータ施設がありますが、大阪市内での研究開発型インキュベータ施設は島屋ビジネス・インキュベータのみです。

財団法人大阪市都市型産業振興センター
島屋ビジネス・インキュベータ
所長 上村 隆雄



<ヘラクレスと私・退任ご挨拶>

52歳で中央三井信託銀行を早期退職して大阪証券取引所にお世話になって8年6カ月、還暦を迎え2010年3月末日で無事定年退職の運びとなりました。在職中は一貫してIPO業務に携わってまいりました。ヘラクレスで始まり、ヘラクレスで終わるといっても過言ではない大証勤務でした。

2001年10月大証に入社、「上場誘致をやってくれ」ということで、大証の株式会社化でできた発足間もないマーケティンググループに配属されました。(その時の責任者はVECメンバーの岡本志郎氏)その頃は、ナスダックジャパン(以下NJ、2000年6月売買開始、大証がNJと業務提携して共同で運営していた新興市場)の全盛期で、年間40社以上の新規上場がありました。NJの営業担当者とは一緒に企業訪問をしたり、情報交換をしたりで、親密な関係を持っていました。

ところが、翌年2002年8月NJとの業務提携解消、日本からの撤退発表を受け、大証がNJ市場を引き継ぐことになり、2002年12月ヘラクレスが誕生しました。その時はマーケティンググループの責任者として、動揺を抑えるためのNJ上場企業訪問、東京支社立ち上げ時に1カ月半東京に長期出張、また東京、大阪、名古屋で異前大証社長とヘラクレス市場の説明会を開催するなど知名度アップに奔走していましたが、ヘラクレスはなかなか市場として認知されませんでした。この間ライバルの東証マザーズが息を吹き返し新興市場で圧倒的なシェアを占めていったのです。

2005年4月に「ぐるなび」がヘラクレスに上場して、この知名度の高い企業の上場を契機にヘラクレスへの上場希望企業が一気に増えていきましたが、その矢先予想だにしないことが起こりました。

株価が1円、2円で取引される上場企業が現れ、その大量の売買注文に売買システムが追いつかなくなったため、2005年6月～2006年1月の間ヘラクレスへの上場申請を停止するという事態になったのです。

申請受付を再開した時は、ヘラクレスの人気も上がっていましたので多数の企業がヘラクレスに上場申請しました。結果4月は8社、6月には10社の新規上場があるなど、2006年は37社の新規上場でこの年がヘラクレス年間上場社数のピークとなり、そして2007年によくマザーズを上回る事ができました。

その後は上場企業の不祥事が相次いだことで上場審査が厳しくなったり、リーマンショックの金融危機などで新規上場はどんどん減少して、IPO氷河期に入っていったのです。

新規上場社数推移(参考)

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009
ヘラクレス	43	24	7	16	22	37	25	9	1
マザーズ	7	8	31	56	36	41	23	12	4
全市場	168	124	121	175	158	188	121	49	19

今年秋には、ヘラクレスは新ジャスダックとして新たな新興市場に生まれ変わります。

再び2006年当時のように多くの上場企業を輩出してほしいものです。

最後に、VEC関係者様のこれまでのご支援に感謝申し上げ退任の挨拶とさせていただきます。

中林 策

～経営計画書のススメ～

弊社は資金調達を目的とした事業計画書作成を通じて「新事業活動促進法」の承認取得や新規事業に関わる助成金申請・取得支援、社外向けプレゼンなどの資料作成、金融機関向けの決算対策などを行っています。

コンサルタントとして様々な経営者の方と話をすることが多いのですが、最近では「経営計画書」の作成支援という形でお手伝いさせて頂く機会が増えてきています。

経営計画書は船でいう羅針盤であり、「わが社のあるべき姿」をどのように実現してゆくかその方策を具体的に示すものです。



経営計画書がないということは、羅針盤も持たずに海に出て行くのも同然です。これでは自分が今、どこにいるのかさえわからなくなってしまいます。

よく「経営計画書を作ってもその通りに行かないのだから、作っても仕方がない」ということを言われる経営者の方もおられますが、目標はその通りいかないから役に立たないのではなく、その通りにいかないからこそ役に立つ(見込み違いがわかってこそ、正しい舵取りができる)ものです。「なぜこうなったか」を考えるよりも「どう取り戻すか」を考える方が重要です。

「経営計画書」は、1年間のものから中長期、また新事業や経営改善計画などその企業の状況に応じて策定するものです。経営者自身が、この「経営計画書」こそ時間をかけて作成することが、最重要であると考えています。「社長は何をしたらいいか・・・」を見つけ出す最良の方法は「経営計画書」を自ら立てることにあります。

しっかりとした「経営計画書」は、①事業の方向性が明確になり、②社員全員が会社の利益目標を理解でき、③計画と結果の乖離を測定することで対策実施が可能となり、おのずと金融機関等から支援を受ける際の強力なツールとなり得ます。また金融機関としては計画を概ね8割達成することが、支援継続の目安としてあります。この不透明な時代だからこそ、多くの経営者に「経営計画書」を策定し事業継続の推進力として活用して頂きたいと考えております。

FMBコンサルタンツ株式会社
チーフアドバイザー 藤田 大輔

グルメ情報

Mandolino Since 1974

VECの近くにあるパスタ&イタリア料理の人気店「マンドリーノ」さんをご紹介します!

おすすめはパスタランチ。野菜たっぷりのサラダとパン、週替りの選べるパスタ、そしてコーヒー又は紅茶つきで1,000円(税込)。ボリュームも十分です。

オーナーの心意気を感じるお店ですが、特に店長の上田やすこさんの笑顔と応対ぶりには惹かれます♡

ランチタイム 11:00～14:30 (混みますので早めに……)
ディナータイム 17:00～22:00

大阪市中央区南本町2-4-3 丸全ビルB1

堺筋本町駅8番出口より2分

(1Fはデリマンドのお店) TEL:06-6266-2321

～VEC関西より～

◆大企業の業績は持ち直しつつあるそうですが、それはリストラと資材のダumpingに近い安値によるものといわれています。しかし、そのしわ寄せは、中小企業やベンチャーに来て今将に大氷河時代です。頼りの民主党政治も混迷して先がさっぱり見えません。関西VECもこんな時にこそ、お役に立つ施策を立案したいものです。(本田)

◆最私の主催しております女性対象のサークルも今月で無事に一年が過ぎました。OLさん中心の女性が集合し退社後一つの癒しの場となればと毎回違ったテーマで頑張っております。今月は先月「てんこもり」で寄稿されたリフレクソロジーの秋田さんのリフレクソロジーと私のカラーセラピーのジョイントです。今回は面白い試みですのでお互い仕事おわりの打合わせでヒートアップしております。(濱本)

◆大阪成蹊大学の工藤教授はベンチャー関係に熱心に取組んでおられる先生です。この度島屋ビジネス・インキュベータに就任されました上村所長から開設20周年を迎えてのメッセージを頂きました。(澤村)

◆<交流会の予定>

6月17日(木) 上海観光親善大使 本堂 亜紀 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



最近のベンチャー雑感



VEC事務局が大阪科学技術センターにあった頃、例会の後、リクルートの人を紹介され、その人が企画責任者とは知らず「アントレ」という雑誌を「私はこんなことをしたい、誰かお金出して、支援して、とおんぶに抱っここのあんな甘えた雑誌は良くない」と痛烈に避難した。その人は「でも売れているからいいんじゃない？」と反撃を開始。「甘えは判っているが、実現云々より、夢を持つことの楽しさが受けている」という説明に納得した記憶がある。

最近、本田支部長様の御推薦で、大阪市IAG委員の委嘱を受け、ベンチャービジネス事業発表会に参加させて頂いておりますが、「アントレ」とはレベルがまるで違うものの、まだまだ「甘い部分」が多くあって、各委員様からは、表現は非常に軟らかながら「そんなのダメよ」と突き放すことも多くそれは仕方ないとして、少しでも可能性がある案件では検討すべき課題を指摘するご意見が多くです。この人達はその後どうしているのだろうか？

最近の景気低迷、加えて「反発係数が低くなってきた」、「将来に夢を持ってない若者が増加している」などの表現に比例してベンチャー案件も少なくなっているようです。

昨年、「VEC」「IAG」「商工会議所」など関西ベンチャー支援団体が一同に会して「各団体の連携を深める」方向での初会合が開かれましたが、「VEC」の支援ポジショニングもそろそろ明確にしてゆく必要があると感じました。

まず、ビジネスプランの発表で良く感じるのが、考えだされたビジネスの「魅力」がなかなか伝わってこないことが多くあります。ビジネスプランそのものの問題と、短時間にどう伝えるかの「伝え方」にも問題がありそうです。次に、消費者やユーザーが本当にそのような商品やサービスをその価格で欲しているのだろうか？という疑問がありますが、これも切り口と表現の仕方で大きく変わると思います。私の感性

と「アントレ」の感性とのギャップがその良い見本です。

そこで「エグゼクティブサマリー」が書けるレベルの教育支援事業もありかな？と思います。ここで基本的なチェック項目を確認し、「課題の指摘をされて、結果突き放される」ことが大幅に減少すると思います。

そして、最大の課題は「マーケティング」ではありますが、インターネットも「ホームページ」から「ブログ」へ「ツイッター」へと流れが変わり、「写真」から「投稿動画」へとどんどん変化しています。これらをこなすに、知識の修得と安心で安く頼める先を見つけることすら大変です。

私は「エグゼクティブサマリー」よりこちらのほうが優先順位が高く、まずアイデアの段階で「ツイッター」や「ブログ」を通して消費者心理を知りそして「投稿動画」などで思考錯誤しながらの確認を得て、商品化・ビジネス化へ進むのが結果的に成功する率が高いと確信しています。このようなインフラ支援があれば良いと思います。

発案者は、アイデア・技術・商品化以外に、発表の仕方から資金、マーケティングに至るまでのオールマイティにこなせる人など居ないと思われ、指摘事項はわかるがじゃーどうしたら良いかで止まってしまう。

世の中、特に日本では夢を持ちづらいなか、手取り足取りかも知れないが「夢」を持ち易い環境支援が要る時代かもしれないと思っています。



賛助会員 片山 和明

大阪証券取引所(大証)とジャスダック証券取引所 (ジャスダック)が合併 ～新「JASDAQ」市場に期待します～

今年4月1日に大証とジャスダックとが合併されました。これによりヘラクレスとジャスダックの両新興市場を統合し、今年10月の予定で「新ジャスダック市場」が開設されます。

新市場は1000社を超える上場企業の集積となり、国内最大の新興市場が誕生します。

基本理念は「新しい産業や中堅・中小企業に幅広くエクイティ資金を供給することを通じて、その成長を支援するとともに投資家にとって魅力的な投資機会を提供する」とされています。

新市場の名称は新「JASDAQ」の予定でスタンダードとグロースに区分される予定です。

制度要綱(案)は2月16日に公表されており(<http://www.ose.or.jp/rules/pc/100216a.pdf>)将来的には

米国NASDAQ市場のようなオリジナリティーに溢れた世界のベンチマークとなる新市場を標榜されています。

我々関係者も大いに期待しております。

以上



株式会社大阪証券取引所(大阪本社)
〒541-0041 大阪市中央区北浜1-8-16
大阪証券取引所ビル

「大阪史跡巡りの勧め」

実は、明治維新史について、ここ十数年、毎月一回、4人の仲間と一緒に、泰斗・毛利敏彦先生から講義を受けてきた。その中の一人Iさんは、不動産仲介業を営んでいる。大阪の各地域の地価その他を含めて価値判断をする都合上からだろう、市内の史跡関係にも詳しい。しかし、他のメンバーは（私も含めて）大阪の街中を何十年も歩き回っているが、歴史的な目で見たことがない。一度、現場にじかに立って、身体全体で大阪の歴史を感じてみようということになった。

二月某日、午後1時御堂筋南御堂前に集合。曇りつつない青空の下、合計351歳、平均年齢70.2歳の5名はIさんを先導に歩き始めた。

南御堂→北御堂→文楽発祥の地→緒方洪庵の適塾（日本に残る唯一の蘭学塾遺構）→五代友厚像（大阪証券取引所前）→花外楼（木戸孝允命名の老舗割烹：明治8年日本の運命を左右する「大阪会議」が開催された場所）→福沢諭吉誕生地→開運山高野寺（長州藩蔵屋敷跡、毛利家より高野山に寄進され、街中の建立）等々

知らぬ間に時計の針は5時半を指していた。Iさんの万歩計で17,000歩。約10キロ歩いたことになる。途中神社仏閣ではお参りをし、各所での見学をジックリおこなったのが休憩代わり。4時間半、殆んど腰をかけることもなく、お茶も水すら飲むことなく…サンサンと照り付ける太陽の下…、何と元気な70.2歳ではないか。Iさんの計画では、まだ、いくつかの史跡が予定されていた。でも、肥後橋付近で「北京料理 徐園」の看板を眼にしたときには、衆議一決「残りは次回まわし!!」となった。店に飛び込んで、大ジョッキで乾杯したときには、一番若い私（66歳）でも生き返った心地がしたものだ。それからの一日を振り返っての欲談は尽きそうになかった。そこには、青年のような興奮があった。皆の意見が一致したのは、適塾での感動である。

橋元左内、大村次次郎、福沢諭吉等塾生が寝起きをした27畳の大部屋。その部屋の真ん中の柱には、（彼らの情熱のほとばしりの象徴と考える）無数の刀傷が今も残っているのだった。（写真は適塾の大部屋の柱の刀傷）まだまだ、大阪をみて回らねば…というのが皆の感想だった。そして、それは続いている。大阪人と称するひとなら、是非、「史跡巡り」を試みられることを心からお勧めする。



藤井 暉彦

じしん
侍真について（12年間籠山行）

天台宗開祖の最澄が今も生きているかのように献膳・勤行・清掃に加え学問と修行で12年間、山中にある浄土院を一步も出ずに行なう苦行中の苦行です。それは掃除地獄とも言われ戦後は7人しか達成されていません。高川住職はその行を達成された高僧です

・坐禪とは

頭の中を空っぽにして半眼のまま、視線を斜め下に落とし、呼吸を調べ、無の境地に至る行。われわれ、俗人は座っている間中、雑念が次々と巡ってきますが、無理にとめようとせず、なすがままにしておく「無の境地」の入り口に至ります。

・主な行事

毎月1日・16日 大聖欲喜天・折願お勤め 午前4時・10時半・午後2時～
毎月第1日曜日 月例法縁の会 午前11時～
毎月第3日曜日 護摩供祈願 午前11時
最乗院：大津市坂本4丁目1-7 TEL 077-579-0992

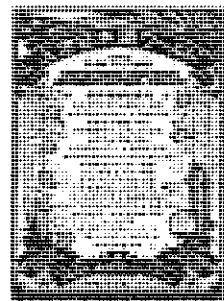
（記）笠井 裕



VECレポーターが行く!!

～上方日本酒ワールドへ行ってきました!!～

日本酒にける思いをお客様にも常に伝えたいと関西の飲食店と全国の蔵元が立ちあげた日本酒屋台祭り「上方日本酒ワールド」へ行ってきました。時は5月9日（日）AM10:00スタート。場所は大阪天満宮の境内、入場料として会場で専用グラス（500円）を購入するのが私は前売りを購入していたので当日購入とは少しデザインが違うグラスを引換えてもらい少しご満悦!!



天候もジリジリと夏のような太陽の下、境内はよくもこんな大勢と思えるくらいお酒好きの人、人、人でごった返してました。各々15店舗と蔵元がまるで大学の模擬店のようにテントが並び、参加者は気に入った日本酒を求め購入したグラスに（一杯300～500円位）注いでもらい、又時折日本酒に合った美味しいお料理をつまみにいただく（日本酒だけでもOK）・・・暑さのせい喉の渇きをお目当てのお酒でじっくり味わいながら潤すことにより昼よりいい気分になってしまい、また数ある日本酒の中でも私は「扶桑鶴（鳥根）純米吟醸にこり」が大のお気に入りになってしまいました。見知らぬ人同士でも「お酒」を通じて一緒に楽しめ、奥の深い日本酒に酔いしれた休日でした。

詳しい内容はHP 主催：日本酒に固め <http://manji.atukan.com>

「陋規と清規」

—前編—

「陋規が廃ると国が乱れる」という箴言が昔から中国にはありますが、現在の我が国の状況は相当に陋規が乱れている様に感じられる。

1990年代以降、所謂バブル崩壊以降はその傾向が顕著に筆者には感じさせられる。

陋規とは判り易く言えば裏社会の法律、規則のことで、その反対語が清規である。泥棒でも物品は盗むが、人を傷つけたり、障害（あや）めたりはしない、ヤクザでも博打はやるが、麻薬には手を出さない・・・と言う様な暗黙の取極めの様なものがある。

親が世の中で一番可愛い筈の我が子を殺したり、子が親を殺したり、また大手企業と云われる企業でも収益をあげる事のみ奔走して犯罪に近い様な行為を平然と行うなど、相当に危なっかしい状況にある様に思える。特に日本では12年連続して年間3万人以上の自殺者が出ており、先進国では異常な状態であり、近年は20代30代の若者の自殺者が増加している事とその理由も含め非常に憂慮すべき状態ではなからうか。

昨年8月の政権交代は国民のそれぞれの不平、不満、やるせなさ等の大きな心の発露と感じており『志』のある政治が行なわれていない事に国民は大きく失望している様にも思える。今一番大切な事柄は「経済」と明確に断言できるのではないだろうか。

<続く>

ブランメゾン 株式会社 代表取締役 白屋 健二



比叡山山麓・最乗院での坐禪三昧

本田支部長が永く続けておられる、恒例の一日坐禪修行に参加させていただきました。厳しい苦行をされたとは思えないおだやかで、超然とされた高川慈照住職の有難い「ご講話」と「坐禪」に加えて、心がこもった「手づくり精進料理」を楽しみました。今回も自分をリセットできた意義深い一日でありました。次回は秋の予定です。一度参加されてはいかがでしょうか。ぜひ非日常をご体験ください。

「最乗院に関して・・・。」

～VEC関西より～

◆雨にねれ、野山が輝く六月です。先日、八ヶ岳のふもと清里に山菜取りに行ってきました。若芽が我先に顔を出し「新春の気」がみなぎっていました。日本のベンチャーもこんな元気な時があったな～（本田）

♥少し前から私の周りで流行っているのが“食べるラー油”です。TVで紹介されてからは手に入りにくくなって寂しい限りです。自分で作ってみようかな！（藤本）

♣お陰様で毎月色々なジャンルの方々からご寄稿をいただき、すぐに1ヶ月がやってきました！引続き今年後半も明るい話題づくりを目指し、スタッフ一同精一杯行動しますのでご協力よろしくお願ひ申し上げます。（澤村）

◆<交流会>VEC創立35周年交流会
7月1日(木) 京都女子大学 准教授 西尾 久美子 様



☎06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！



VEC35周年を迎えて



本年7月でVECも35年を迎えます。

私はVECに1952年、設立二年後に入れていただいたので、まだ、弱冠37歳のころです。

ベンチャービジネスと言う言葉が大変新鮮に感じられ、父が経営する建材の販売会社の営業をする傍ら、新しいタイプの風洞を開発しそれをどう伸ばしてゆくのか悩んでいたころです。

当時VECは「研究開発型企業育成センター」とよばれ、企業が研究開発を推進するのに必要な資金を一億円限度として債務保証する財団法人でした。

関西支部長は日本高分子化学（株）という会社を経営しておられた百々達郎さん。

ほんとにすごい人で、世の中にこんなに何でも知っていて、話の面白い人はいないとすぐ、惚れ込んでしまい、お酒を飲みながら夜を徹して、いろいろなお話を伺った。それまで、学生時代の友人や、業界の方々しか知らないのが、新しいことに挑戦し失敗した話など新鮮で面白く、将に交流会が楽しみで先輩からいろいろなことを教わった。

今でも百々さんはどんな仕事をする会社を経営しておられたのかよくわからない。話があちこちに飛び、水洗でないトイレの開発で細菌が便を食べつくし分解してほとんどきれいになるので山小屋などは大変便利と確信し売り出したところ中に抗生物質を飲んでいた人がおり細菌がそれを分解せず大失敗をした話などの失敗談や北新地の有名クラブ「おた」の美人ママは俺が影の彼氏だとか、世間知らずの私は、夢中になりました。

昔話はそれ位にして、今後関西VECはどんな役割をすればいいのかを考えてみたいと思います。

一番VECとしてやらなければならない役割はなんといっても、ベンチャー支援です。

派遣社員の契約打ち切りや、身体は元気だけど仕事のない熟年の方々が何か仕事をしたいけど、アイデアがなかったり、ど

のようにして会社を立ち上げればいいのかわからない方が大勢おられます。

そのようなアーリーな段階では、お金よりも相談相手や仲間が必要です。

今、近畿経済産業局や大阪府、大阪市はベンチャーの研究開発の助成金や事業評価など様々な支援プログラムを持っておられます。しかしどれもかなり成熟した段階でなければ、それらのプログラムは活用できません。

私が考える支援策のひとつとしてそのような方々の出会いや、交流、一歩踏み出して指導やお手伝いを企画推進します。

現在VEC交流会もいつも40名以上のかたがたが集まってこれ、個別の出会いが様々あり新たなビジネスも生まれています。

このような場を積極的に活用し、よりシステムチックに企業化の推進が出来れば良いな一と考えています。

2025年には財団法人も組織の組み換えが行なわれ、VECにもある程度収益を上げることも求められます。ベンチャーにとっても、我々支援機関もきっちり役割を果たせないと、存続できません。もっと地に着いた、新しい仕組みの研究が求められます。

皆様のアイデアやご提案を待っています。

また、早いもので「てんこもり」も創刊して今年10月で6年目、記事の内容は必ずしもベンチャーとは関係ないことも多いですが、読者の皆様と「てんこもり」を通じて通い合うものを大切にして、続けたいと願っています。

気楽に読んでいただければ、時代の移り変わりも感じられるのではないかと自負しています。

財) VEC関西支部
理事・支部長 本田 英行

～VECについて語る～

前・関西支部長 梶屋 好昭氏

今でも多方面でご活躍中の前関西支部長梶屋好昭氏からVECの変遷や果たしてきた役割について語っていただきました。

当時の「ベンチャー支援への情熱」を再確認させて頂き、意をあらたに致しました。

Q：昭和50年にVECが東京本部と大阪事務所に設立されましたが、その主旨や経緯はどのようなものでしたか？

A：我が国で初めての1億円の無担保債務保証と云う事で、中小・零細企業は色めき元気を出したものです。保証を受けた中から上場した企業が年間数社ペースの時期もありました。事業の状況によっては、もっと輩出していたかもしれませんが……。

Q：当時のベンチャービジネスや支援体制はどのような状況でしたか？

A：ベンチャービジネスで新製品の開発をするべく銀行に相談に行っても余り乗ってくれないケースが多かったと聞いています。また大阪府とか時の通産局では開発費として1000万円ぐらいの融資があったと聞いていましたが、当時はベンチャー支援体制はあまり整っていなかったと思います。

Q：VEC債務保証事業で当時の審査委員長は本田宗一郎氏などすごい方々が携わっておられたとお聞きしていますが……。

A：本田宗一郎氏は理事会終了後に良くお話しを聞いておられますと、大変豪快なお方とお見受けしました。いつも「ニコッ」と笑っておられるが、審査の時は厳しい「審査の眼」をして居られた事を懐かしく思い出します。

Q：VECがベンチャー支援と育成に貢献してきたことについてお聞かせ下さい。

A：当時の交流会は「言うたろう」「見たろう」「聞いたろう」の精神で、当方から出向いたり関西支部にも来て頂くなど、異業種交流会間の交流会も重ね、関西の各大学とも交流が広がりました。現在の「VEC交流会」は当時からのリーダー的な役割りを継承し、認知されていると思います。

Q：VECに期待されることをお願いします。

A：VEC関西支部にも、今流行りの「VECホールディングス」？的な発想で、サポート集団の設立を考える時が来ている様に思います。VECの財産である「豊富な知識」「豊富な経験」を持った方々がベンチャーや中小企業のためにサポートできる体制を是非お願いしたいと思います。

～VEC創立35周年に思う～

<前編>



VECが今年(2010年)7月1日に創立35周年を迎えるに当たり創立時1975年(昭和50年)頃の事柄について述べて頂きたいと私の本田支部長及び鬼の事務局長澤村氏より依頼があった。その時代を表わすのは新聞が一番だと思ひ市立図書館にて創立年の幕開けの昭和50年1月1日と創立日の7月1日の日経新聞を入手した。S50年1月1日(水)の一面トップ記事を紹介します。

世界の不況インフレを追う恐慌は来るか。海外特別取材班報告。重苦しい年明けである。世界経済は不況インフレ、石油問題の三重苦を背負って悩み抜いている。不況は容赦なく広がり、深まっている。米国、西独、イタリアなどは公定歩合を下げ「インフレ退治」から「不況回避」へ政策の重心を移そうとしているが、不況対策か、インフレ対策かの選択をめぐって、先進諸国は迷い、悩んでいる。もちろん、わが国も例外ではない。さらに中東の政治問題とからんで石油問題も楽観を許さない情勢である。

世界経済安定化の糸口はいったいどこにあるのだろうか。日本経済新聞社は昨年末、第一線記者による海外特別取材班を米国、欧州諸国、アラブ産油国などに派遣、現地特派員の協力を得て危機打開の道をさぐってみた。その結果は不況、インフレの同時解決は多難であり、石油問題の前途も厳しいとの見方が予想外に多かった。まず危機を指摘する証言から紹介しよう。三重苦の証言、①気味の悪い不況、②怪物インフレ、③石油という武器、石油価格が今後さらに上がり続けることがあれば、世界経済はこれに耐えられず、工業発展二百年の歴史の果実がもぎ取られることになる。

次に創立記念日のS50年7月1日(火)の日経新聞の一面トップ記事を紹介します。

いったん薄日がさしかけたと思ったら、実はまだ厚い雲がたれこめていた。今年前半の景気はこんな感じだったようである。7月以降はどうか。頼みの個人消費は「春闘ショック」が尾を引いて、とても軽快な足どりと言う訳にはいきそうにない。さりとて財政からのテコ入れは、物価と歳入欠陥の荷物をかかえているため、大きな期待を持ってない。景気は今しばらく一進一退のアヤを織り成しながら、基調としては横ばいに推移しよう。底を這う期間は思ったより長くなりそうである。ツユ明け宣言はしても、そのあと、依然さええないツユ空続きの冷たい夏。秋口になだらかな回復の入口に立つまでは、そんな景気ではなからうか。

(続く)

ナニワ鏡工業 株式会社 代表取締役 谷村 公二

学んだことを中心にお話させていただきました。例会にご案内いただけたようになったのは、それ以降のことです。その後、島屋ビジネス・インキュベータ在籍時に、全国主要大学にヒアリングした内容を元として「大学発ベンチャー」のお話もさせていただきました。

最も印象に残っているのは、VECの主力事業だった債務保証が打ち切られる際に、有志で大阪ガスの「奥池ロッジ」に合宿したことです。藤井さんのご厚意で、安価で一泊させていただきました。熱っぽく語った一夜のことが懐かしく思い出されます。当時は10数名の参加に止まっていた例会が、いまや40名を数えるほど活況を呈するようになったことは喜ばしい限りです。

ところで、皆様は「扇子商法」という言葉をご存知でしょうか。商売を扇子の開け閉めにたとえたものです。通常、不景気の時は扇子を閉じて将来に備えたいところですが、老舗企業の世界では、不景気の時こそ来るべき日に備えて、積極路線を歩むべきと説かれます。

積極果敢にチャレンジしていくのがベンチャーですが、ときに協力し合うのも大切なことです。「自立と協働」-VECがこれからも協働の場となり続けられることを祈念しております。

大阪市住吉区社会福祉協議会
事務局長 深堀 謙二

『陋規と清規』

<後編>

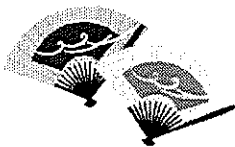
政治の分からない(関与しない)経済人、実業家は全く問題ない(寧ろ、社訓、家訓などで政治への関与を戒め、本業で社会に貢献する様に創業者が残しているケースが多く・・・結果、社会、国家に貢献する優良企業となっている場合が多い)が経済の本質を理解出来ていない政治家の場合は最悪である。それは世界の歴史を見ても、その時代の国民が塗炭の苦しみを強いられている事が良く理解出来る。特に最近の新政権による事業は仕訳に国民の関心が集中しているのも、ムダを早く排除して欲しいと言う国民の切なる願いであり、個人の家庭では、これでもか!と言う程に仕訳をしてムダを排除してスリム化している中で、国家のこの巨大なムダはいつまで続くのかと言う、相当の「イラダタシサ」と「ハラダタシサ」が感じられる。

欧州ではG.P.S(ギリシャ、ポルトガル、スペイン)が問題となっているが、早くそれらを「他山の石」として謙虚に学び、経済と言う言葉の本質を良く理解している『志』ある政治家の出現と政治を切望している。

ブランメゾン 株式会社 代表取締役 白屋 健二

創立35周年に寄せて

～思い出すVECとの日々～



7月1日に、VECが創立35周年を迎えられるとのこと。本当におめでとうございます。永年にわたり、活動をリードされて来られた歴代役員の方々及びご参加者の皆様方に心より敬意を表します。

ご案内のとおり、ライブドア事件やリーマン・ショックが契機となって、ベンチャーを取り巻く環境には極めて厳しいものがありますが、逆風が吹き荒ぶいまこそ、「ベンチャースピリット」を発揮すべき時と存じます。

さて、思い出せば、私がVECメンバーの方々と交流させていただいたのは、昭和60年10月に開催した「第2回研究開発型企業全国交流研究会」の折と記憶しております。ちょうど大阪市経済局調査課(現・企画調査課)に異動して半年が過ぎた頃でした。残念ながら、公務として認知されなかったため、やむなく陰に隠れて、研究会の企画や資金集めをしましたが、若干の赤字が予想されました。しかし、懇親会に本田支部長を始め、VECメンバーが数名ご参加いただいたお蔭で、若干の黒字決算となりました。

その後、VECとの交流はありませんでしたが、昭和59年に入会した「新大阪ベンチャービジネスクラブ」の会合で、本田支部長始めVECメンバーの方々と一緒にできる機会が持てました。その頃学んだことが、いまでも役立っていることを痛感しております。

また、例会講師にもお招きいただきました。確か、新大阪ベンチャービジネスクラブや大阪府中小企業家同友会HIP研究会から

～VEC関西より～

▲鳩山政権から菅内閣へ。しかしベンチャー企業への逆風は続きます。近頃はVECにもベンチャーの悩み事相談が持ち込まれることが多くなりました。VECの持つネットワーク機能に期待がかかります。しっかりと対応するよう心がけています。(本田)

♥先日、ほんと久しぶりに名古屋へ行きました。銀行勤務時代は本店が名古屋のため私にとって親しみのある土地です。今回の滞在は少しの時間だけでしたがお会いする方々の名古屋弁も懐かしく駅前も豊田ビルなどすっかり変わっており驚きでした。(濱本)

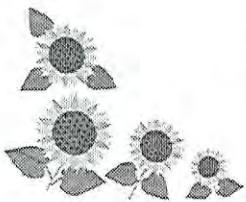
♣お陰様でVEC創立35周年・てんこもり発刊70号を迎えることができました。VECがさらにお役に立てるようスタッフ一同邁進してまいりますので皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。(澤村)

◆<交流会>
8月は例年どおり休会となっております。

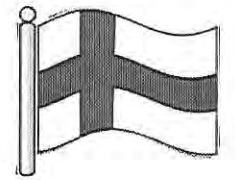


☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



豊かな国で不思議な国 ～フィンランド



森と湖とたっぷりの自然、ゆったりとした時間の流れと、それを楽しむ人々。

サウナ・ムーミン・オーロラ・サンタクロース・ノキア・福祉・・・を思い浮かべるフィンランドですが、特に教育面や経済競争力ではトップクラスの評価を受け、注目されています。

またまたフィンランド在住の“Abreu聖子”さんにご登場いただき「本当のくらしや様子」をお伺いしました。

Q1. 人口（約530万人）とGDPが日本の北海道とほぼ同じフィンランドが、なぜ携帯電話世界トップの「ノキア」を生み、国際経済競争力トップクラスの評価を受けているのですか。

A: 1980年代のノキアの方針転換がカギだったと思います。この時期に、ノキアはゴム製品製造業から通信業へ大転換しました。つまり、当時はリスクの高かった投資を行い、それが近年大当たりをして成功したと言えると思います。賭けがあたった訳です。

もちろん、当時、「これからは通信だ」と見抜いた目もあったと言えるでしょう。

Q2. 教育面でOECD調査において世界トップの評価を受けていますが、教育現場はどのような様子ですか。

A: 確かに、「詰め込みではない」という点は言えると思います。生徒に考えさせて、自分のアイデアや、回答や答えを自ら作らせます。そして、それをクラスメートの前で発表します。この「プレゼンテーションの機会が圧倒的に多い」点が日本とかなり異なる点かもしれません。テーマは教師が決めますが、実際に何を報告するかはグループ内で相談し、各自分担を割り振ります。各自が自宅で調べて来たことを再度グループでまとめ、発表します。発表時間は1グループ5から15分くらいですが、私が見た限りでは、ほとんど毎日何かの時間で生徒達によるプレゼンテーションがありました。

第2点目として、日本の学生よりもフィンランドの学生の方が「読書量が多い」と感じます。小学校では何かしら読んでくる宿題が毎日出ます。大体、5から10ページくらいだと思います。大学では、分厚い本数冊からテストという話も良く耳にします。読書を趣味とする方も比較的多いです。

第3点目として、特に小学生の場合、親が子供の宿題を毎日見る家庭が多いと思います。日本では親も子どもも忙しなため、毎日1-2時間も親子で宿題をする時間をとるのはなかなか難しいですが、フィンランドでは、親は4時で帰宅しますし子どもには通わないので、親子の時間が比較的多いです。また、フィンランドが教育に力を入れた歴史も長いので、親の側にも平均的に高い学力が既に備わっており、親が教育者としての役割を果たしている側面もあるかもしれません。

それ以外は、日本と共通点が多いのも注目すべき点かと思えます。

Q3. 起業やベンチャーの状況、公的機関やキャピタルの支援はどのような様子ですか。

A: フィンランド人自身が、現在はフィンランド経済の分岐点にあると考えているようです。「第2のノキア」を生み出すため、フィンランド発の成長ベンチャーが切望されています。そのため、ベンチャー支援はかなり充実しています。特にハイテク関連の支援は、アイデアさえあれば、公的サービスや補助金を比較的簡単に受けられます。

Q4. 国土の約70%が森林とのことですが、主要産業は林業のほかにもどのようなものがありますか。

A: 製紙、造船、通信が、フィンランドの主な3業種です。やはり人口が少ないため、技術の質を維持するために、この3種に業種が集中しています。

Q5. 物価がヨーロッパの中でも比較的高く、消費税も高いと言われてますが生活実感はどうですか。

A: 物価は日本より、かなり高いと思います。特に、衣料品、外食、輸入品、車が高いと感じます。車は日本の2-3倍の価格です。輸入野菜も、例えば白菜やしいたけ等は日本の3倍近い価格です。逆に、国内で日常的に消費される食品は、日本とそれほど変わらないと思います。季節にもよりますが、ジャガイモは1ユーロで3-5キロは買えますし、米も1ユーロで1キロほど買えます。トマトは1キロ3ユーロ程度です。ライ麦パンも、一袋500グラムが2ユーロ程度です。

近年は健康関連市場が目立った伸びを示しています。健康志向の消費者が増え、日常的に摂取する食品についてはほとんど、スーパーでオーガニック食品を買うことができます。日本よりも比較的安価に有機食品が手に入ります。

Q6. 平均的な労働時間や休暇取得状況はどのような様子ですか。

A: 通常の労働時間は朝8時から夕方4時です。残業する場合は、別の日に短時間働くなどして、週内または月内の平均労働時間が1日8時間以内になるよ

う各自調整をします。4時以降は、どこのオフィスもひとけがありません。正社員の休暇は年6週間あります。平均的には、夏に4週間、冬に2週間休暇を過ごします。

Q7. 充実した社会保障制度と言われてますが高齢者や失業者などは不安なく生活できているのですか。

A: 失業保険はかなり充実しています。失業後2年間は就業時の70%の収入が補償されます。職業訓練システムがかなり充実しており、職業訓練期間中は失業期間とは見なされません。大抵は安定所から職業訓練クラスに通うことが勧められ、実際に2年間フルで失業であることはほとんどありません。職業訓練期間中には複数の

の企業で長期間（1、2ヶ月間）研修を行う義務があります。受け入れ企業にとってはただで労働者を雇えるメリットがあり、研修者にとっては経験として一般に認めてもらえるというメリットがあります。両者の利害関係をうまく調整した良いシステムだと思えます。

職業訓練期間中や高齢者は、最低限の収入（月に600ユーロ程度）は保証されます。月に600ユーロという金額は、食費や光熱費でいたいなくなります。

Q8. コーヒーの1人当り消費量が世界一で、水道水は飲めると聞いていますが・・・

A: 水道水は安心して飲めます。地域によるかもしれませんが、オウル（フィンランド北部）の水道水は、日本の神奈川県の水道水より美味しいと感じます。コーヒーは1日最低2、3杯はのみます。すこし酸味のあるコーヒーで、ミルクか砂糖を足して飲むことが多いです。ティー・バッグでいれる紅茶やルイボス茶もよく飲まれています。

Q9. 女性がタフで美人が多いと聞いていますが・・・

A: 確かに女性はとてもタフで、プライドが高く、もの静かで美人が多いと思います。気候のせいかもしれませんが、肌の白さときめ細かさが特徴的です。結構皆さん乾燥とアレルギーでお困りですが、サウナ、運動、優秀な保湿クリームで対処されているようです。

体力的だけでなく、精神的なタフさもフィンランドの文化の重要な要素です。あまり多くは語りませんが、信頼できる方が多いです。多くの女性が仕事についており、マネージメントとサービス業に多く見られます。

また、子育てをしている母親に対して、とても社会が優しいと感じます。子連れの方は、順番待ちにも優先させてもらえ、待つことが少ないです。子連れと言っても、子供が小学校低学年程度まで同じような待遇です。人口が少ないせいでしょうか、あまり細かな時間のロスを気にすることはありません。日本では、子連れの親が順番を優先されると、文句を言う方がたまにいらっしゃって、厳しいなあと感じることがあります。

Q10. 最後に、フィンランドで日本のことが話題になることはありますか。

A: 近年は日本文化がブームなようです。近年は車や精密機器のみならず、生活関連商品についても多くの方が使ってみたく興味を持っています。日本語を習う大学生も少なからずいます。柔道、剣道、合気道は非常に人気があります。その他にも、日本の漫画は普通のスーパーでも手に入りますし、日本のゲームも幅広い世代に人気です。

ただし、ニュースで流れる日本の話題のほとんどは、「エレクトロニクス」か「捕鯨問題」です。それ以外の様々な日本の社会問題は、一般にはそれほど知られていません。

大学のクラス等でアンケートをとると、日本に旅行したいと言う若者は沢山います。ただ、日本で働きたいかという質問には、それほど積極的ではないようです。むしろ、ドイツやイギリスの方が人気です。理由を聞くと、「日本では家族と過ごす時間が少ない」ことが、第1の理由のようです。



アブレウ聖子さん

～VEC創立35周年に思う～ <後編>

それから7月1日(火)の同じ日の23面に三億円犯人はこんな字を書く男、金くぎ流、多い誤字、時効まで五ヶ月脅迫状を公開、「最後の切り札に」と公開ポスター掲載。

以下この頃のオイルショックと油断(ゆだん)についてまとめておきたい。
 第一次オイルショックの発生はS48年(1973年)10月6日に第四次中東戦争が勃発。イスラエルが占領地から撤退するまでイスラエル支持国(米国やオランダなど)への石油禁輸を相次いで決定した。さらに12月23日には石油輸出機構(OPEC)に加盟のペルシャ湾岸の産油6ヶ国が、S49年(1974年)1月より原油価格を引き上げる、と決定した。それに対する対策と影響については皆様熟知しているので省略。油断(ゆだん)は堺屋太一(本名は池口小太郎)のS50年(1975年)の小説、概要は中東からの石油輸入が制限されるようになった時に、日本はどのような状況下に置かれるかを書いたシミュレーション小説。S48年(1973年)に小説の第一稿は書き上げられていたが、現実世界で本物のオイルショックが発生したため、不安を助長させないために出版を見送った。石油危機が落ち着いたS50年(1975年)に、第一稿に若干の修正をして出版。当初、堺屋は某中央省庁出身として素性を伏せていたため、覆面作家として発表した。

あらずじは、中東で戦争が勃発し、中東から石油の輸出が制限されるようになった。石油の殆どを輸入に頼る日本は経済システムが麻痺していき、社会混乱が加速していく。

次に第二次オイルショックはS54年(1979年)のイラン革命により、イランでの石油生産が中断したため、イランから大量の原油を購入していた日本は需給が逼迫した。また、S53年(1978年)末にOPECが「翌S54年より原油価格を4段階に分けて計14.5%値上げする」ことを決定し、原油価格が上昇、第一次オイルショック並に原油価格が高騰した。最後に千字以内の制約が有りながら、圧縮技術は難しいものだ、それにしても仏教の経典全六百巻を二百六拾余文字に圧縮された、般若心経はたいしたものだと、今さらのように感銘させられた。

ナニワ鏡工業 株式会社 代表取締役 谷村 公二

Going Concern

～永遠に存続する企業を目指して～

株式会社レベストは1997年に従業員6名でスタートしたベンチャー企業です。金融機関を中心としたお客様に登記簿謄本や住民票など不動産担保融資や信用調査に必要な公的資料の取得代行というサービスを武器に業容を拡大し、不動産評価に関わる現地、役所調査、さらには不動産鑑定もメニューに加えサービスの充実を図って参りました。現在では従業員が50名を超え、東京、仙台にも支店を構えるまでに成長いたしました。これもレベストのサービスをご利用いただいているお客様のご支援と、総勢500名を超える現地スタッフの奮闘のおかげです。

目まぐるしく変化する社会情勢の中、レベストも順風満帆な航海を続けて来たわけではありません。例を挙げれば、個人情報保護法をはじめとする、個人情報の取り扱いの厳格化があげられます。レベストにとっては逆風に思われる状況でしたが、いち早くプライバシーマークの認証取得を行い、お客様に安心してご利用いただけるサービスへと進化させてきました。このように社会情勢の変化に柔軟に対応できる柔軟性こそがレベストの強みであります。また、IT技術の急速な発達により、今日ではあらゆる情報がインターネット上にあふれております。それは、あたかもインターネット上で世界中のあらゆる情報が手に入るのではないかという錯覚を与えます。しかし、その情報のソースは必ずどこかで誰かが収集しているはずなのです。IT技術の発達が目覚ましい現在だからこそ、一見アナログに映るレベストのスタッフネットワークの価値が高まると確信しております。レベストの財産であるスタッフネットワークをさらに発展させ、魅力的なサービスを産み出していきます。

ベンチャー企業の平均寿命が10年未満といわれる現在ですが、レベストは10年を超える事ができました。お客様のご支援、スタッフ、従業員の奮闘のもと、次の10年、20年、願わくば永遠に存続する企業になりたいと思っております。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

株式会社レベスト 代表取締役 内園 直紀

「南京玉すだれ」上海・杭州へ行く

(初めに) 去る5月27日～30日、日本南京玉すだれ協会の一行50余名が上海・杭州へ文化交流を目的として訪問。日本の伝統芸能「南京玉すだれ、皿回し、傘回し」を披露し、日中の文化交流の一翼を担った。



(杭州での南京玉すだれの演技)

(27日)・・・上海での演技…閑空より2時間強の飛行機の旅。あつという間の上海の空港。上海は30度を越す夏空。北京と違いスモッグもなくまずまずの天候。到着後即バスの中で演技の服装に着替え、名園で有名な「豫園」という繁華街の特設舞台での演技。大勢の観光客を目の前にして師匠の皿回しから始まり、傘回し隊4名の傘回し、そして団員の50名の南京玉すだれ。1時間ほどの演技に観衆は大きな拍手、拍手。みんな興味深々と感じた。

(28日)・・・小雨の中、上海万博の見学… 少し寒い小雨の中上海万博の自由見学。毎日40万人ほどの観客の予定が少し少なめとか。それでも人、人、人の波。殆どが中国人のようで、いわゆる西洋人は少ない。テーマ館は2～3時間待ちのため、会場全体を歩いて見物。その中、観光客の少ないモンゴル伝統芸能館など2、3のテーマ館を見物。博覧会のテーマは「より良

い都市、より良い生活」。ハイテク、ロボット、エコなど近未来の生活がテーマ。でも見物出来ず残念。当初玉すだれも、会場内で披露することになっていたが先方の都合で8月に延期。別途規模を縮小し参加予定。

(29日)・・・杭州の「河坊街芸術団」との交流…昨夜は、3時間高速バスで杭州へ。杭州はなんと言っても春夏秋冬、雨天晴天と千変万化するといわれる西湖の湖畔の舞台で披露。杭州からは中国の伝統の龍踊り、鼓笛隊などなど。これらの演技の後、演技団との交流会を念頭にあったが、すぐに解散。残念だった。根回し不足が否めない。13億人の隣国との芸能交流も夢だ。

(土産話)・・・フルス(ひょうたん笛)…中国雲南省の民族楽器「フルス」を露天市場で購入。30元。日本でも二胡まで普及していないが、かなりの愛好者がいる。音色は尺八、笙、二胡に似ており、二胡と同じく普及すると思う。



(民族楽器：フルス)

神戸に愛好者がいるので、近く習う予定。皆さん、乞う期待を。

フナガイ企画 代表 舟貝 政夫

<正しい水分補給を>

暑い日が続く、冷たいものが美味しい季節になりました。日本の夏は湿度が多く、体を動かさなくても汗をかいてしまいます。そこで重要になってくるのが水分補給です。人間の体の約60%は水分。

喉の渇きを感じたら、それは体からの危険信号。速やかに水分を補給しなくてはなりません。しかし、水分補給の仕方を間違えると、かえって体調を崩してしまいます。おなかやチャブチャブになるほど水ばかり飲むと、食欲がなくなって栄養不足になり、夏バテ・夏風邪の原因になります。逆に水を飲むのを我慢することもタブー。例えば、夏ゴルフに行き、大量の汗をかいているにもかかわらず、後のビールを美味しく飲みたいからと、ほとんど水を飲まずにラウンドする方がいます。炎天下ゴルフの後飲む冷えたビールは格別に美味しく気分爽快でしょう。でも、これは熱中症を起こしかねない危険な行為で、体は悲鳴を上げています。

アルコール飲料は水の形状をしています、体から水分を奪ってしまうのです。汗をかいて水分不足の体にアルコールが入ると、ドロドロ状態の血液が体中を駆け巡ろうとします。スポーツの後や入浴後、脳梗塞を起こしたという話を耳にします。水分補給はこまめにしましょう。

さて、暑い夏ですが、冷えにも要注意です。どこに行っても建物の中は冷房で冷えています。

一日中冷房の効いた部屋で過ごすと、靴が履けなくなるほど足がむくむことがあります。むくんでいるからといって水分を控えてしまうと悪循環。むくみは代謝の滞り。放っておくと、肩こり・腰痛・便秘・肌荒れ、ひどい場合は内臓疾患にも繋がりがかねません。適度に水分を補給し、体を動かしたり、入浴時にはシャワーだけで済ませず、足湯や湯舟に浸かたりして代謝を良くしましょう。

最近、私が気に入って飲んでいるのが水素水です。多くのプロアスリートが愛用している水素水ですが、実は、水素は遺伝子と密接な関わりがあり、医療の分野でも注目されています。喉が渇いたら何でも飲めば良いわけではなく、体が必要とするものを補うのが健康の秘訣。

夏はさっぱりしたものを口にしがちですが、冷たい素麺を食べる際にも、生姜やネギなど薬味を工夫して、体を冷やし過ぎないように。夏バテ防止にはやはりバランスのとれた食事が一番です。

どうぞご自愛下さい。



健康管理士 新田由美子

～VEC関西より～

◆VECに聖子さんは文科省政策研究所の研究員として在職中、交流会にわざわざ東京から参加されておられました。現在フィンランドに在住の聖子さんからお話しを伺いました。フィンランドは一人当たりの国際競争力は世界トップクラスのようです。高福祉で物価や税金も高く木材以外これといった天然資源がないのにどうして、国際競争力が高いのか不思議でした。やはり教育のレベルが高く、国内外で活躍する人材も多く、携帯電話世界一のノキアをはじめ付加価値の高い企業が育っているのだと思いました。(本田)

♥名古屋場所の千秋楽・・・白鷺の涙が今回の騒動を物語っているようでした。相撲界だけに留まるものではないと思いますが、多くの相撲ファンのためにも初心に戻り外国人力士に負けないように日本人も頑張ってください!(藤本)

♣アベレウ聖子さんに、またまたご登場願いました。豊かで不思議な国フィンランドをご紹介いただきましたので是非、現地を見聞されては如何でしょうか。8月号もいろいろな分野の話が「てんこもり」となりました!!(澤村)

◆<交流会>

9月7日(火) 株式会社 カルクリエーション

代表取締役 鍛冶 良紀 様



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております!



ベンチャー支援 今・昔



私は、約10年前の2000年4月から2002年10月までの2年半、現在の創業・経営支援課の前身である産業企画部 新規事業課で、主にベンチャー支援の業務を行っていました。

当時は、いわゆる第3次ベンチャーブームの真っ直中で、2001年に当時の平沼経済産業大臣による「平沼プラン」（大学発ベンチャー1000社創設を目標としたプラン）の発表、新事業創出促進法の法認定による、ストックオプション、優先株特例の創設、中小企業創造活動促進法の改正によるエンゼル税制の創設等、ベンチャー企業を取り巻く環境が整備され、官民あげてのベンチャー創出、支援の機運が盛り上がっていました。

支援の相談に来られるベンチャー企業の方も、皆さん、日本のマイクロソフトを目指し、日本のビル・ゲイツたらんとする熱気と気迫と夢に満ちていました。

それから、約10年後、現在のベンチャー支援の担当課である産業部 創業・経営支援課に着任して感じたことは、かつてのベンチャーブームは下火となり、ベンチャーという言葉聞く機会が少なくなった、ということです。

この原因は、文献等を調べてみると、2000年初頭のアメリカのITバブルの崩壊、ライブドア事件、村上ファンド事件を端緒としたベンチャー企業に対する逆風、さらに最近のリーマンショックによる世界的不況等にあるようです。

21年度に近畿経済産業局が実施した「これからのベンチャー投資活性化に関する調査」によれば、ベンチャーキャピタルのベンチャー企業向け投資金額は2006年の2,774億円から、2008年には1,294億円と半減しており、こうしたキャピタルの投資額の減少、さらに金融危機により資金調達が難しくなっていること等により、IPO社数は2006年の188社から2009年には約10分の1の19社に激減しています。

もともと、IPOを目指す成長指向性がベンチャー企業の特徴の一つとされることから、これらのデータは、現在のベンチャー企業を取り巻く環境の厳しさを表していると思います。

ベンチャー関係者の中には「現在ではベンチャーという言葉は死語になっている。」と言われる方もおられるくらいです。

しかしながら、10年前、そして現在ベンチャー支援に携わっている私としては、ベンチャー企業の持つ、アントレプレナー精神により新たな市場を開拓し、経済を活性化させ、雇用を創出するという役割は、現在の不況下こそ必要とされていると考えます。

今年6月18日に新政権により閣議決定された「新成長戦略」においても「科学・技術力を核とするベンチャー創出や産学連携など、大学・研究機関における研究成果を地域の活性化につなげる取組を進める。」と明記されています。

今まで以上の強力なベンチャー支援策の構築が喫緊の課題であると考えますが、ベンチャーブーム最盛期の10年前の支援のやり方が、そのまま現在に適用できるとは思いません。

現在の穏やかな経済成長に合ったベンチャー支援のやり方があるはずだと考えます。

現代におけるベンチャー支援のあり方について、VECの会員の皆様とも一緒に考えながら取り組んでまいりたいと思います。

どうか、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



近畿経済産業局 産業部
創業・経営支援課長 玉野 直毅

～産学連携に携わる機会を得て～

- 私は、本年4月から国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学に縁あってフルタイムのコーディネーターとして働いております。3月までは、大和SMBCキャピタル（7月より大和企業投資、SMBCベンチャーキャピタルの2社にわかれて再出発）というベンチャーキャピタルでベンチャー投資に携わってきました。
- 入社した時は90年代バブル後の信用不安の真っただ中でしたが、その後のITバブル、バイオベンチャー、MBOなどその時々時代のテーマの変遷に応じたエクイティファイナンスのダイナミズム、そしてIPOバブルとその凋落を経験することができました。その間にベンチャーキャピタルも世の中に知られるようになりました。
- そのような中、大学に職を得たのは本当に偶然です。深い考えがあったわけではありません。ただ、奈良先端発ベンチャーの支援をするというミッション惹かれました。VCはここ数年どん底の経営環境で私自身も特にここ2年は後ろ向きに仕事の比重が高かったのも背景にはあり、大学ではもっと素直な思いでベンチャーに関われるのではないかと思ったのです。
- しかし、ベンチャー支援の常勤コーディネーターは私一人なので何をどうしようか悩んで体が動いていないのが現状です。学内の起業・事業への思いを持った人達とどうミートするのかという基本的なところから始めなければなりません。

よく考えるとこれまで全くクリエイティブな仕事をしてこず、会社組織に甘えてきたことがここにきて随分崇っているなあというのが実感です。

- とは言え、4月以降、奈良先端大発ベンチャーのフィット、クレンジングテクノロジー、ホープフル・モンスターの3社と親交をもつことができました。本学情報系の出身者、現役学生が興したIT、サービスモデル系ベンチャーです。とても若くてパワフルでそしてサービスも技術も先進的です。世間的には大学発ベンチャーというくくりになるのですが、そういう言い方はあまり好きではありません。大学の名をもつのは、スタートアップ時にはとても有益ですが、3社ともすでに実態のある事業を行っていて大学発ベンチャーという括りからは卒業して事業の拡大を目指している段階だと思います。
- 私も事業を真剣に興したい人と関わりたいと言うところは前職時代とかわりません。たまたま幸運にも大学に基盤を置くことになりましたが、本学にも“思い”をもった学生、教員の方を応援したいと思っています。安易な起業をすすめるという意味ではありません、念のため。
- 以上、勝手なことを書きました。まだまだ産学連携の仕事は駆け出しです。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を頂ければ幸いです。

奈良先端科学技術大学院大学・産官学連携推進本部
文部科学省産学官連携コーディネーター 酒木 間多

縁ありて花ひらく

シリコンバレーに駐在していたころから多くのベンチャー企業の創業者にお会いしたが、彼らが一様に述べておられるのは創業にまつわる「人との出会い」である。「偶然にあの時あの方にお会いし、それが機縁になって会社が創業できた。ピンチの時にあの方の一言に助けられた。」などご縁の有難さであった。私自身の人生を振り返っても、もしあの方に助けられなかったと思うとぞっとすることがある。現にVECと関係をもてたのも竹馬の友である大江雄治さん（元りそなキャピタル常務）のご縁による。

さてこの縁とはどのようなものであろうか？

縁とは計らわずして頂戴し、それをお互いに深めてゆき、それを紡いでゆき、最後に織物の曼荼羅図のように鮮やかに紡いでゆくものと思う。この不思議な縁を説明する考え方には、欧米では複雑系の理論がある。そこでは①志をもったエージェントが適切な場のもとで周りに働きかけて、②身近な縁をネットワーク化して（自己組織化）新しい価値を生み出すことができると説明している。これはご縁を広めたり、深めたりして自然発生的に形成されたシリコンバレー成立の過程などをよく説明している。

さらにこのご縁が能動的な生命体のように活発に活動できる安定した状態が「カオスの縁」といっている。この状態は「秩序ある世界」とカオス（無秩序）の中間で、カオス（無秩序）では縁が繋がらず、そうかといって余りにもオーガナイズ（秩序ある世界）されていると、新たな出会いがない。縁とはうまくいけばどんどん発展するが、一方で壊れやすく、際どく安定している状態のことを説明している。

欧米では縁という言葉がなく、日本人がその歴史文化的に醸成した概念であるが、日本人が縁を考える背景には仏教の影響があると思う。

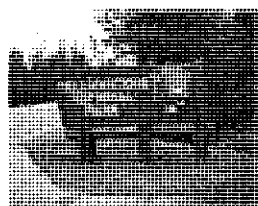
因縁生起説では、直接的原因（因）と間接的原因（縁）が揃って結果をもたらすと考えている。例えば種を蒔き（因）、水をやれば（縁）、植物は育つ（果）ことで原因がなければ結果が生まれない、すなわち善因善果、悪因悪果という縁ありて花ひらくことを説明している。

同様に仏教の縁議論では、我々は、「自分というのは、両親や先祖のつながりにより今があり、現在生活できるのは過去だけでなく、現在目に見えない多くの方々に支えられ生きてきた。人というのは、縦横無尽のつながり（ご縁）の中で生かされていると殆どの日本人は暗黙の認識があり、「縁ありて花ひらく」ことをなんとなく理解していると思う。この感性は外国人には見られないもので日本人のトレードシクレット（企業秘密）といってもよい。

釣島平三郎

『アメリカ初の国立公園、イエローストーン』

昨年辺りからメディアでもその名前を良く見かけるようになりましたが、日本での知名度はまだそう高くない「イエローストーン国立公園」。アメリカで初めて国立公園に認定された世界遺産です。モンタナからワイオミングに広がる四国の半分にもおよぶ広大なこの公園が目される大きな理由は2つ。



ひとつは周りをロッキー山脈に囲まれ、特有の生態系を作り出していること。緑豊かな森からツンドラ、砂漠へと変化する様子を目の当たりにし、そこに生きるさまざまな野生動物たちと至近距離で遭遇することができます。地面に身体をこすりつけ砂煙を上げて自分を誇示するバイソンや、立派な角を持ち悠然と草をはむエルク、山を登っていくビッグ・ホーン・シープの群れや高い木の上から周りを見渡す白頭ワシ。そして、熊にオオカミ、コヨーテなどなど。その迫力は言葉では言い表せません。

そして2つめはこの公園自体が大きな活火山であること。

地下の巨大なマグマだまりが地上に吹き出す間欠泉は世界的にも圧倒的な数と規模を誇ります。また、巨大な石灰山や美しい色を発するバクテリアの池など、独特な地質が生み出す造形美はこの公園特有のものです。

さて、このイエローストーンを訪れるにはどうすればよいか？大手旅行会社がたくさん周遊の観光ツアーを出していますが、見所やペースというのは人それぞれ、当社はイエローストーンは個人手配

で行くべきだと考えております。でもご心配は要りません。空港到着から出発まで現地のエキスパートガイドが完璧なエスコートをいたします。大型バスで移動する観光ツアーでは決して体験することの出来ない大自然の旅を必ずお約束します！詳しくは、<http://www2.odn.ne.jp/astavel/nationalpark/nationalpark.htm> をご覧ください。詳しい資料を下記までご請求ください。

お問合せ先：アストラベルサービス（株）担当 大竹 智子
TEL 06-6947-7190 メール as-travel@popl6.odn.ne.jp

<シリーズ>



～おもしろい“色”のおはなし～

～初対面で好印象のイメージカラーは??～

日常我々の周囲には様々な色の中で囲まれており普段は何も気にとめていませんが衣・食・住に関しても色がない世界なんて考えられません。

私たち人間には感情がありますね。ですから個々の喜怒哀楽の感情表現があるように色の世界も同様で嬉しい時にはこんな色の気持ち、悲しい時にはこんな色気持ち・・・と人それぞれ違った色が出現してきます。

ですから、色彩心理とはその色が人間の心理・健康にどのような働き・効用があるのか解明研究がされ各々の専門分野でも活用されています。

さて、今回はビジネスシーンなどで皆さんも様々な場所で色々な方とお会いすることも多いと思います。そこで初対面で相手に好印象のイメージをあたえる色は?・・・とイメージして下さい。お互い良い印象を残したいと思うことは誰でも共通した気持ちです。

色彩心理学の見地から暖色系(赤・橙・黄)が良いとされ、特に私のオススメは明るく若々しいイメージである黄色です。

黄色は「コミュニケーションカラー」と称され相手と自分の距離感を縮めてくれ温かく何かこの人と接してみたいという感情がわくイメージがあります。特にビジネスで営業の方など初めての企業訪問される時はスーツのネクタイ等を黄色をベースにされるのも一つの案かもしれません。

これから「色」が持つパワーで色々な分野が今以上に新しい道を開けるようにと願うばかりです。

参考文献:「色の心理」なるほど辞典
VEC 関西支部 濱本 妙子

—VEC理事長 異動のお知らせ—

8月に松村博史理事長が退任され、新しい理事長に市川隆治氏が就任されました。ご両名のさらなるご活躍をお祈り申し上げますと共に引続きご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

～VEC関西より～

◆ VEC 関西のお世話役、色彩心理カウンセラー・濱本さんのご意見によりますとベンチャーのカラーは「黄色」とか・・・。将来VECの旅行もイエローストーンとしましょうか。そう言われれば私のネクタイも黄色系が多いかな？ (本田)

♥ 先日、南海・堺東にある「中国新疆ウイグル料理」のお店へ行きました。ウイグル自治区といえば西遊記にでてくる火焰山が観光地として有名で、やはりメニューは羊肉がメイン。その中でも「シンカワブ(ラム肉の串焼き)」がオススメ。又日本ではここでしか飲めない「桜蘭」というサッパリ系ワインなどなど、西日本ではたった一軒しかないこのお店でのウイグル人の食文化は想像以上に深かったです。(濱本)

◆ 新しくご就任されました玉野創業・経営支援課長からベンチャー支援についてのご寄稿を賜りました。タイミングよく酒本コーディネーターからも産学連携の状況についてメッセージをいただき、VEC関西支部はさらに充実して行かねば・・・と考えます。(澤村)

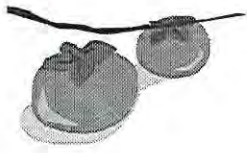
◆<交流会>

10月5日(火) 本田工業株式会社 代表取締役社長
VEC関西支部 理事・支部長 本田 英行 氏
10月26日(火) 近畿経済産業局 産業部 創業・経営支援課長
玉野 直毅 氏

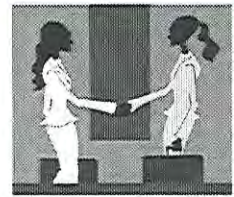


☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！



「女性の起業」



最近、女性の企業家が新聞、雑誌、テレビなどで紹介されることが多い。

多方面の制度改革、法整備、又少子化などにより女性が起業がしやすくなったこともあり今後も増加すると考える。

「起業」については男女差は特にあるとは経験上からもあまり感ぜられない。昔のように力仕事になれば女性では困難の分野も文明の利器により事業として取り組むことも可能となり現に活躍されている。

ここで強いて起業について女性の特質的なものと考えれば、男性なら極端に云えば今日起業と思えば可能なことが女性は出産、育児、介護、又夫の考え方などにより、自分の意志と行動が思うようにならないことが多々あり、起業の時期、年齢、体力、情熱などの面において気の毒と思える点もあるが、それらをのり越え、家庭と仕事を見事に両立し、中には共稼ぎだった主婦が自分の定年後に希望する業種に起業し、短時間の内に目を見張るような業績を挙げられ74才の今も現役で頑張っておられる。又49才から独立開業された女性は現在63才。毎期の売上高平均20億円を維持。

2例の社長、共に相当な役員報酬を得ておられる。

他にまだまだ起業され大成功を納めておられる女性企業家を拝見している。

その共通点を男性と比較した場合、我慢強さ、粘り強さ、情熱の強さ、脇目も振らず、ひたすらに目的に向かって進む姿勢は、側に居ても驚かされる。

男性はどちらかといえば、大勢を把握しながら進む方が多く見受けられる。

特に起業前後において、特長的な感がある。

起業及び事業継続においても男性に比較してそのタイプ（取り組み姿勢）に、一つは先に述べたように全身全霊、力を注ぎ男性以上に成功を納める方、もう一つは女性独特のある甘え、もし失敗しても主人の給料があるから又親が食べさせてくれるから、チャレンジして困難なこと嫌なこと等があると努力する前に計画を途中で止めてしまう。

又趣味程度であるのにビジネスになればと期待する。確かに趣味が事業として成り立っていることもある。しかし「事業」と「趣味」とは違う。起業すれば多少はあれ従業員、債権者などに義務や責任を負うこととなる。誰しも起業となると心配、迷いなどある。

しかしその後の事業継続する中ではその成長段階において人材、販売、資金など様々な経営問題に直面するものである。希望すれば起業は誰にでも可能な場合が多いが事業を継続させてこそ企業家といえるのではないか。起業に当たっては資金、売上、仕入、採用、経費などの計画は勿論のこと自己の能力、まわりの協力、環境、それに加え大切なことは良き相談相手がいるのかなど。その仕事が自分に向いているということと経営者になることと同じではない。

最後に女性の持つ素晴らしい資質と特長を生かし、起業され活躍又社会に貢献されることを同性として切に願っています。

石田会計事務所
経営コンサルタント・税理士 石田 和子

◆ BOPビジネス

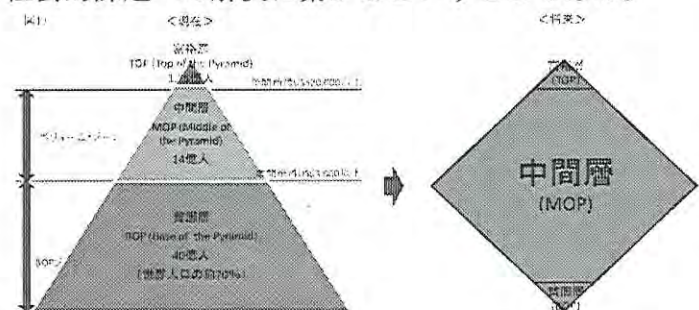
発展途上国で暮らす人たちの人口52億人。1日2ドル以下で暮らす人口26億人。安全な水を得られない人口11億人。5歳まで生きられない人口5億人。十分な栄養を得られない人口11億人。電気が使えない人口16億人。読み書きが出来ない人口12億人。(※C.K.Prahalad - The Fortune at the Bottom of the Pyramidより。)今、世界では、年間所得3,000ドル以下の低所得者層が約40億人存在し、これは世界人口の約7割に相当する。市場規模は日本の実質GDPに匹敵する約5兆ドルとも言われ、BOP層 (Base of the Pyramid) として欧米企業を中心に熱い視線が注がれている。

BOPビジネスの先駆けは、バングラディッシュのグラミン銀行である。グラミン銀行は、BOP層にマイクロ・クレジット（小口融資）と言う少額の貸付を行った。女性を中心に500万人以上に貸し付けを行ったが、貸し倒れ率は僅か2%に留まった。この制度で元手資金を得た多くのBOP層が商売を通じ生活水準を向上させたのだ。また、グラミン・フォンの事例も有名である。固定電話には繋がらないが、携帯電話同士の通話が格安であることを売りに、利用者を拡大させた。そもそも固定電話の普及率の低い新興国では、固定電話と繋がるよりも、携帯同士の通話に限定されるが、その分通話料が安いということの方が重要だったのだ。新興国ならではの発想である。

BOPビジネスに関しては、日本企業よりも欧米企業が先行している。(仏)ダノン、(バングラディッシュ)で8円ヨーグルトを売り、(蘭)フィリップスはインドで格安コン

ロを販売。スキン・ヘアケア用品のユニリーバは新興国中で小袋シャンプー等の販売を行っている。各社ともに今年、来年の収益では無く、BOP層が後にMOP層へと成長した時に得られる巨額の利益を想定した長期的な戦略を描いている。BOP層の獲得には、長期的な戦略と、ローカライズしたマーケティングを要する。オーバースペックな商品やサービスでMOP層の獲得に苦しむ日本企業にとって、BOP層の獲得は更にハードルが高いだろう。しかし、貧困への課題は世界規模で進められており、長期的には、BOP層は減り、図1の様にMOP層が中心となる市場ができあがる。その時、市場の中心に居るか否かは、今、BOP層へどう取り組むかに他ならない。

また、忘れてはならないのは、BOP層への取り組みの意義はビジネス以外にも非常に大きく、貧困という地球レベルの社会的課題への解決に繋がるということである。



ストラテジック・デシジョン・イニシアティブ株式会社
(SDI)
代表取締役 森辺 一樹

「浅い呼吸・深い呼吸」

九月に入っても真夏日の様な暑さに体調をくずされている方が多いと思います。

暑さだけでなく、一日中パソコンと向かい合っただけで目が疲れ、肩がこる。イライラして集中力が無い等、ストレスの原因はたくさんあります。そんな時いつの間にかネコ背体型になり、呼吸も浅くなっていないでしょうか？

六月に「誰でも出来るヨーガ呼吸法プチ講座」を開催。1時間程度ですが本田支部長やVECの皆様8名にご参加いただきました。

ヨーガというクネクネとアクロバットの様なポーズをとり特殊な世界を想像されますが本来はめい想が目的です。心と体は一体ですから心だけ、体だけ健康になる事はありません。「健全な肉体には健全な精神が宿る」といいますが、日常生活では体は心にふりまわされています。例えばとても腹が立つという時、血圧は上がり心臓はどっくんどっくん速くなり、肉体に負担をかけています。深い呼吸をして心が落ち着いていたら影響も少ないでしょう。呼吸は心と体のかけ橋といわれますが現代人は絶えず緊張して浅い呼吸をしている為、交感神経優位の状態になり、自律神経が不調和になっています。ストレスは交感神経を刺激して免疫力を低下させます。欲び、怒り、悲しみ、憎しみ、愛などの感情の起伏は活力を与えたり、やる気を無くしたり体に大きな影響を与えます。

めい想はありのままの自分を見つめ心の動きを出来るだけ小さくなる様に仕向けます。

ヨーガという名詞はサンスクリット語でユッジ（つなぐ、結びつける）という動詞に由来しています。「馬に馬具をつける」ともいわれ怒りや嫉妬、不安などにふりまわされる心の動きを自分の意志の力でしっかりと一ヶ所に結びつけるという意味を持っています。

めい想により真の心の自由を得る（あばれ馬を制す）というのが目的です。

ヨーガは体操、呼吸法、めい想からなっていますが、先ず体操から始めます。日常生活でくせづいた体のゆがみ、ひづみを取る為の体操は形がきれいに出来るかどうかでなく、体の声（痛いとか気持ちいいとか）ざわめきに心を傾けながら自分の状態に合わせて行ないます。体の状態が正しい呼吸の仕方や呼吸の流れが感じられる様になり、体も気も整ってくるとめい想に適した身心の状態になります。

自分が宇宙に向かって無限に広がり、大宇宙の根源と自分が一体であるという感覚が得られ、いきいきとした生命力に溢れます。



坐・マインドフィットネス
鈴木 雅子

メディアの白黒二元論の呪縛からいつ日本人は解放されるのだろうか

小泉・竹中政権による「郵政改革は構造改革の本丸」というメッセージに自民党内の改革を期待し小泉旋風が起き、行政改革による小さな政府論に喝采し、安部・福田政権がその仕上げをするものとばかり思っていたら、自爆してしまい、今度は小沢・鳩山・菅トロイカ体制の「政権交代」のワンフレーズに酔いしれたが、官僚をうまく使いこなせない民主党政権に一年ももたず失望し、そこに円高株安が到来すると未曾有の大不況が到来するからと、前幹事長派の財政支出の拡大を伴う大きな政府論に喝采する。

この白黒二元論に酔いしれる国民体質は何もここ数年で始まったものでないことは近現代史を研究すれば分かることである。

幕末、黒船が到来すると、それまで幕府に散々、軽視されていた朝廷を持ちだし、日本を神国化扱いし、外人を一切排斥する「攘夷論」が国内に沸騰し、下関・薩英戦争で外国の軍事力に圧倒されるといつのまにか、倒幕論にすり替え、明治維新に突入する。

近代化のために、一気に江戸文化を否定し文明開化とばかり欧化政策受け入れる。

日清・日露戦争に勝利（最近の戦史研究で清国、ロシア側の調査がすすむと、かなり、日本は薄氷を踏む勝利であったことがわかってきた）すると、日本は列強に充分、伍する一等国であると勘違いし、日本の中国進出を非難されるとメディアと軍務官僚が一体になって鬼畜米英論をぶち上げ、即ち、昭和の攘夷政策であり、あの悪夢の太平洋戦争に突入していくのである。そして、敗戦後は米国文化の絶頂の嵐である。その絶頂が小泉・竹中時代の米国流市場原理主義による金融立国化で頂点を迎えたと言っているだろう。（あわや、日本の高齢者の最後の財産である郵貯が米国金融資本により、食べ物にされるどころであったが、リーマンショックによってかろうじて救われたというのが実態であった。）そして反小泉感情と政権交代で郵政は180度転換の国有化に向かっている。

あと数年で1000兆円になろうとする国債による財政破綻問題にしてもそろそろ冷静に情勢分析し、対処すべき時がきているにも拘わらず、有名なエコノミストが真顔で個人・企業は破産しても国が破産することはないとか、500兆円の資産があるから大丈夫だとか（道路、港湾、空港、皇居とか売れない資産を計上するばかばかしさ）結局、中味は違え、戦争中にメディアが神州日本や皇国日本みたいな合理性のない論議に熱中して、精神論にばかり依存する体質は八十年前の日本と本質的になんら変わっていないよう気がするの私だけだろうか。

メディアや政府広報に振り回されることなく、日本人個人個人が自分の問題として真剣に捉える時期がきているのではないだろうか。そして過去、日本は外圧（今回、財政破綻した場合はIMFの管理）がかからないと本気にならないという習性があり

（幕末の英仏による植民地化、太平洋戦争敗戦によるGHQ支配）それを乗りきったのは難しい理論ではなく「世代交代」であったことを肝に命ずべきである。

不動産兼経営コンサルタント 山口 孜



～VEC関西より～

◆今、我が国は、尖閣諸島の問題や円高、雇用問題、話題は尽きません！でも自然は着実に秋から冬に向けて歩を早めています。新米から柿、栗、実りの秋到来です。快い季節を祝い一杯やる余裕も必要ですね。（本田）

♥ここ1～2年で鍋つゆの種類が増えています。定番になっているキムチ、豆乳、カレー他、どれも間違いなく美味しいです。先日スーパーで鍋つゆもここまで来たか！と驚いた商品がありました。おでんのカレー味でした！もはや、おでんではないような気がしました。…（藤本）

♣一面は、以前交流会で講演いただきました石田税理士と森田代表からビジネスのヒントを、二面は呼吸法やヨーガを永年研究されている鈴木先生と論客・山口代表から、それぞれの視点でメッセージを賜りました。（澤村）

◆<交流会>
11月16日（火） 池田 雅彦 様（企業OB）



☎06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！

2010 VEC関西
今年の10大ニュース

今年も12月、あわただしい季節がやってきました。

10大ニュースは私の担当です。毎年のことながら、何か、平穏な一年だったかな～でも、やっぱり色々あるものです。

政権は民主党に替わり、しっかり政治をやってくれると期待しましたが、未熟さばかり目立ち、わが国の存在感が世界で小さくなりつつあるように思います。相変わらず、景気も株価もさえません。ベンチャーの活躍も静かな一年でした。

さて、今年の10大ニュース。

1. VEC 創立35周年を7月1日に迎えました。盛大に式典と言いたいですがVECの財政を意識してささやかでも楽しく皆さんに祝っていただきました。
優雅な中にも、したたかな京都花街のお話を京都女子大学准教授 西尾久美子先生に楽しく語っていただきました。
何時かは花街に遊びに行こうと心に誓いました。
2. VEC理事長が替りました。松村さんから市川さんに。松村さんご苦労様でした。市川さんよろしくお祈りします。
3. 今年も新年交流会をめでたく行ないました。経済産業省新規産業室長八尋俊英氏から講演をいただきました。でも9月、省を辞められました。大いに期待していただけに残念でした。
4. 東京本部事務所が移転しました。八丁堀から人形町へ。昔は浜町地区として、落語にもよく出てきます。東京に行かれたらお立ち寄りください。
5. VEC創立当初からのメンバー、下條武男VEC理事が六月に「楽しくダイナミックに!」を発刊、ご自分のベンチャーの生き様を語られました。
6. 上海万博がオープン、上海観光親善大使・本堂亜紀さんが講演いただきました。
美人なので、皆さん顔ばかり眺めていたような気がします。

7. 関西でもベンチャーをどんどん立ち上げなければ、関東に遅れをとるとのコンセプトで、シニアベンチャー支援会が発足。関西VECの人脈を活用しベンチャーを育てようと張り切っています。
8. 文部科学省の研究所からVECの交流会に参加されていた、山田聖子さん(旧姓)が結婚してフィンランドのオウルにおられます。澤村事務局長ご夫婦とわが夫婦など有志が訪問しました。オウル市のベンチャー、支援機関と交流会が何度かおこわれました。
9. 「てんこもり」はお陰さまでこの12月号で75号となります。ご愛読いただいている皆さんもどんどん増えています。来年もよろしくお祈りします。
10. 交流会も参加者は増加してきました。
九月の(株)カルクリエーション 社長 鍛冶良紀氏の講演、また、10月の小生の「ベンチャーと雇用」などは、60名以上、会場に入りきれないほどのご参加をいただきました。ありがとうございました。

これで、やっと10件になりました。甘えついでに、もう一件、番外です。

<番外> わが長男に、10月無事にかわいい男の子が出来ました。「泰地」という名前です。いつか皆様の仲間に入れてやってください。

やれやれ、今年もこれで終われそうです。来年も「てんこもり」ご愛読お祈りします。

財) ベンチャーエンタープライズセンター
関西支部長 本田 英行

「社会が博士を育てる」

表題を見て、「何を寝言言うてんねん。博士を育てるのは大学やろ。」と思わず突っ込みを入れた方が多いのではないのでしょうか? 私見であることを予めお断りしたうえで少し意見を述べさせていただきます。

2008年の統計ですが、我が国では年間17,396人の博士が輩出されています。人口が約1億2,700万人ですので10万人あたり13.7人という割合になります。諸外国を見渡すと、ドイツが31.5人、イギリスが27.1人、アメリカが18.7人、お隣の韓国が18.4人となっています。

「量」的にやや開きがあることもさることながら、これら4カ国とは「質」的に大きな違いがあります。それは諸外国では博士の活躍の場が産業界にもあるということです。もちろん、我が国でも産業界で活躍されている博士がおられますが、まだまだアカデミアが主なフィールドです。

その原因は何だろうと思いを巡らせたところ、欧米各国では博士号を取得するために大学院の博士課程に在籍しますが、日本の様に大学院だけにべったり居る訳ではないということが一つのヒントではないかと思ひ至ります。

学士、修士も含めてですが、大学と産業界の間を行ったり来たりして、その代わり何年も掛けて学位を取得するのが常だそうです。

逆に、学業オンリーで一直線に学位を取得した学生は産業界の評価が高くないということです。

我が国は全く逆で、まるで脇目も振らず寄り道もせず一本のレールの上を一目散に走って来た学生しか企業は相手にしない風潮があります。「キャッチアップ型」の時代はこれで良かったのですが、「フロントランナー型」となった今、この悪しき慣習が日本経済のダイナミズムを殺していると言っても過言ではないと思います。

共同研究や知財のライセンスで産学連携は機能しつつありますが、人材育成といった観点でも産と学が「協働」することが、経済の足腰を強くし再び日本を強くするものと確信しております。

2年程前から大阪大学産学連携推進本部で「協働育成型イノベーション創出リーダー養成」事業に関わっております。インターンシップで博士人材を受け入れて頂いてキャリアパスを多様化すると同時に、企業の直面する課題を解決する糸口に繋ぐ取組で、成功事例も出始めております。ご興味おありの方は、<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/led/>までアクセスしてみてください。

大阪大学/合同会社キックティアー 吉田 耕治



障害年金の手続きのお手伝いをさせていただいて (後編)

- ・また障害年金の手続きをさせていただいたご縁で、7月から『病気の人が前向きになる為の交流会』を以前から開催させていただいていた『障害年金無料相談会』と共に、毎月開催させていただく事になりました。
- ・ご病気の方が決して孤独にならないように、少しでも前向きにご病気と闘っていただくための情報交換の場などになればいいと立ち上げました。
- ・現代の諸問題のいくつかは地域のコミュニケーションを密にする事によって解決出来る問題があるように思います。
- ・お年寄りの孤独死、子育てにおける虐待、所在不明高齢者問題等々…。その中の一つとして私が行っている『多くおられる貰える人が貰っておられない障害年金を貰えるようにする』という問題を地元密着の社労士が行うべきであると思っています。
- ・これらの地元でしか解決できない諸問題を役所、病院、町会、介護事業所、児童相談所、学校とそれに我々のような士業に携わる人々が連携して高齢者、子育ての女性、子供、障害者を支えて行かなければならないと思っています。
- ・一人暮らしや核家族化された世帯が多い中、従来では家族が支えていた人達をこれらの機関がネットワークを作り、見守り、支えて行かなければならない時代になったと思っています。
- ・以上文章も稚拙でお恥ずかしい限りですが、これからも人様のお役に立てるような仕事をする事が出来れば有り難い事だと思っています。

社会保険労務士 安藤 克之

グ支援を行っています。この時代を乗り切るのは、いかに多くの情報を入手し、いかにスピーディに行動を起こしていくかが鍵となります。我々は時代や市場を見極め、いち早く海外に打って出る企業を支援していきたいと考えています。

アリババマーケティング株式会社 長島 直樹

<シリーズ>



～「赤」と「緑」のクリスマスカラー～

「色彩学」を学ぶにあたって基本知識の中で「赤・黄・緑・青」を中心に特定の色が全部で24色が時計回りに各々の色を尺度化し1つの円を描いた形体を「色相環」といいます。



話は変わりますが12月と言えばクリスマス！クリスマス色をイメージしてみると「赤」と「緑」ですね。今回は色相環とクリスマスカラー（赤・緑）についてお話したいと思います。

上記の「色相環」で反対に位置する関係を「補色」といいます。（例えば赤→緑・橙→青・黄→紫の位置）特に私は講演やセミナーの際赤い○を10秒ほど見て頂きその後白い紙に視点をかえると緑色した同じ形の残像が見え皆さん本当に驚かれます。この関係を「心理補色」といいます。この作用が我々の生活でも活躍しており、特に「赤」と「緑」相互の関係は身近なところでよく目にするのはマグロのお刺身（赤）と横に必ずある大葉（緑）。この関係も補色同士であり補色は互いの色を強め合って鮮やかに見せる効果がありより一層の互いの色が引き立ち大葉の緑の効果でマグロの刺身の赤も一段と新鮮に見えます。

又、有名な補色による補色残像のケースでは外科医が手術時は白衣から青、緑の手術着に着がえること。これも手術時の血液（赤）の残像である緑色がちらつき外科医の目に支障がないようにしているのです。

今度は「色彩心理」みると、塗り絵によるワークショップで無意識に「赤・緑」がよく出現している方がいらっしゃいます。これは赤の「目標達成したい」という強い願望、達成感と緑の「安定・穏やかな気持ち」と両者、正反対と思えますが深層心理では欲求とブレーキを混ぜ人間として一生懸命バランスをとろうとしており、人として大変頑張っている状態であります。

毎年クリスマスシーズン、「赤」と「緑」のイルミネーションで色づく街並みを色々楽しんでる私です。皆様、メリークリスマス！！

色彩心理カウンセラー 濱本 妙子



中小企業の海外市場開拓を支援する アリババマーケティング株式会社

「海外市場の開拓」この言葉を聞いて、皆さんはどのようなことをイメージされるでしょうか。

海外の展示会への出展、貿易実務、言葉の障壁、代金回収の懸念、高額な費用がかかる等々、様々なことをイメージされると思います。しかし、その反面、国内市場が縮小する中で、海外を視野に入れないと事業の継続は難しい、と考えられている企業様も少なくありません。

日本の企業に多く見られる傾向は、先の心配をしすぎる事。諸外国の企業は、まずはチャレンジしてみる。そして、その中で学んだことを次に生かしていくという考え方が多いのです。事業にリスクはつきものです。問題はどこまでそのリスクを許容できるかだと思います。海外市場の開拓についても、まずはチャレンジし、ノウハウを習得しながら自社に合った最適なビジネスモデルを構築して行って欲しいと思います。

次に、皆さんは何か情報を入手したいと思った時、例えば、お店を探したり、知らないことを調べたりする際、何から情報を得ますか？

インターネットのない時代は詳しい人から聞くなり、経験のある人から学んだりしてきましたが、今はインターネットから情報を収集するのが当たり前になっています。我々のような先進国の人間は広告にお金をかけ、そこから情報を入手することも多いですが、次世代の人間や、新興国の方々は特にそのような歴史がない分、情報収集の手段がインターネットになっています。今後はインターネット上に情報を開示していなければ、永遠に知られることはない時代がやってくるでしょう。せっかく競争力のある技術を持っていたとしても誰にも知ってもらえなければ宝の持ち腐れです。まさに知ってもらえることの重要性を理解してもらいたいということです。まさに、世界中に知ってもらうことを時間をかけず、低コストで行えるのがインターネットの利点なのです。

海外市場の開拓でも同じことが言えます。世界中の企業に知ってもらえないことには問い合わせされることはありませんし、商談もできないわけです。海外市場の開拓において最も重要なことは、まず自社についてや自社の製品を知ってもらうことだと私は思います。現在、このインターネットを活用して海外企業との出会いの場である、「e-マーケットプレイス」に注目が集まっています。ここには新たな取引先を探したい世界中の企業が参加しています。その一つがアリババドットコム国際サイトです。弊社は、この世界最大級の企業間国際取引サイト「Alibaba.com」のサービスを国内の中小企業に販売し、アリババを活用した海外市場開拓支援とマーケティング

～VEC関西より～

◆今年も師走を迎えました。今年は上海万博や尖閣諸島問題など、中国にわが国と民主党政府は振り回された感です。来年は是非、主体性を持って確実なる産業の成長とベンチャーが次々誕生するような活気ある年としたいものです。来年も皆様のご健勝をお祈りします。（本田）

♥一年経つのが本当に早く感じられます。交流会への参加人数も毎回増え、皆様のご協力に感謝いたしつつ、本年の最後とさせていただきます。有難うございました。来年よろしくお願ひ致します。（藤本）

◆今年のVEC10大ニュースを見て反省と共に皆様のご協力に大感謝でございます。来年も何かでお役に立ってベンチャー精神の溢れる機関紙を目指しますのでよろしくお願ひ申し上げます。（澤村）

◆<交流会>

1月は例年どおりございません。
新年交流会は2月8日（火）の予定です。



来年もよろしくお願ひ致します。

VEC関西一同



☎:06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！